

# 田原本町文化財 調査年報 17

2007年度



田原本町教育委員会

# 田原本町文化財 調査年報 ○ 17

2007年度



田原本町教育委員会

## 例　言

1. 本書は、田原本町教育委員会が2007年度（平成19年度）に実施した文化財事業の概要をまとめたものである。
2. 埋蔵文化財の発掘調査については、土地所有者・施工業者ならびに近隣の皆様にご協力とご理解を賜った。記して感謝します。
3. 本書の執筆は、I. 1を奥谷知日朗、I. 2を清水琢哉・豆谷和之・奥谷の調査担当者、II・IIIを河森一浩・藤田三郎、IVでは奈良県立橿原考古学研究所共同研究員 奥田尚・奈良県立橿原考古学研究所 鈴木裕明・岡林孝作、パリノ・サーヴェイ株式会社 高橋敦・辻本裕也の諸氏による稿を賜わるとともに文化財保存課職員が執筆した。編集は西岡成晃の協力を得て藤田がおこなった。

# 目 次

## I. 田原本町の埋蔵文化財

1. 町内における開発と遺跡の異動	
(1) 町内における開発と発掘調査	1
(2) 遺跡の異動	2
2. 埋蔵文化財の調査	
(1) 発掘調査の概要	4
1. 阪手遺跡 第5次調査	6
2. 十六面・薬王寺遺跡 第24次調査	7
3. 為川南方遺跡 第2次調査	8
4. 羽子田遺跡 第32次調査	9
5. 羽子田遺跡 第33次調査	10
6. 法貴寺北遺跡 第6次調査	11
7. 舞ノ庄遺跡 第2次調査	12
8. 秦楽寺遺跡 第2次調査	13
9. 秦楽寺遺跡 第3次調査	14
Column 1 秦楽寺城形成以前	15
10. 日光寺推定地 第6次調査	16
11. 阪手北遺跡 第6次調査	17
12. 寺内町遺跡 第10次調査	18
Column 2 津島神社（祇園社）拝殿の変遷	19
13. 寺内町遺跡 第11次調査	20
14. 法貴寺遺跡 第6次調査	21
15. 小阪安田前遺跡 第1次調査	22
16. 唐古・鍵遺跡 第103次調査	23
17. 保津・宮古遺跡 第36次調査	24
18. 西竹田遺跡 第3次調査	25
(2) 試掘調査と工事立会の概要	26
1. タカツキ古墳 試掘調査	27
2. 小阪安田前遺跡 工事立会	29

## II. 資料の整理と活用・普及

1. 文化財資料の整理・保管	
(1) 埋蔵文化財の整理・保管	33
(2) 資料の撮影と写真・図面のデジタル化	37
(3) 資料の寄贈・図書の受領	38
2. 遺跡・文化財の保護	
(1) 史跡の追加指定と公有化	39
(2) 町指定文化財	
ア. 「楼閣」が描かれた土器片	40
イ. 翡翠製勾玉と鳴石容器	42
ウ. 木造十一面觀音立像	44
3. 講座	
(1) 考古学実践講座	47
(2) チャレンジ子ども弥生探検隊	47
4. 学校教育への支援	
(1) 唐古・鍵遺跡活用検討委員会	48
(2) 小学校出前授業	50
(3) 中学校職場体験学習	50
(4) 大学の学外授業	51
5. 刊行物一覧	52
6. 資料の活用	
(1) 資料の貸出	53
(2) 写真掲載・撮影	55
(3) 資料調査	58
7. ボランティア組織	58

## III. 唐古・鍵考古学ミュージアム

1. 唐古・鍵考古学ミュージアムの概要	
(1) ミュージアムの概要	63
(2) 常設展示	
ア. 常設展示の概要	63
イ. 唐古・鍵の弥生世界	65
ウ. 田原本のあゆみ	67
エ. ロビー展示	67

<b>2. 企画展・ミニ展示</b>	
(1) 春季企画展「太安万侖のふるさと～多周辺の遺跡と文化財～」	68
(2) 秋季企画展「ヤマト王権はいかにして始まったか～弥生の王都、唐古・鍵～」	70
(3) ミニ展示	
ア. 夏季ミニ展示	72
イ. 冬季ミニ展示	72
<b>3. 入館者・ボランティアガイド</b>	
(1) 入館者数	73
(2) 入館者アンケート	75
(3) 観察・研修・学校等からの来館	75
(4) ボランティアガイドの実績	76
 IV. 資料の報告・紹介	
1. 十六面・薬王寺遺跡の木棺墓（清水琢哉）	79
附. 管玉石材の石種とその産地について（奥田尚）	85
2. 田原本町所在古墳出土木製品の観察と樹種同定	
（藤田三郎・鈴木裕明・岡林孝作・高橋敦・辻本裕也）	87
3. 泰楽寺遺跡の玉作りと石種同定（奥谷知日朗・奥田尚）	113
4. 法賀寺蓮光寺の総合調査（清水・河森一浩・奥谷・豆谷和之）	125
5. 蓮光寺・津島神社の石材と石種について（清水・奥田）	161
6. 資料紹介 矢部団栗山古墳出土の須恵器（河森・藤田）	169



## I. 田原本町の埋蔵文化財

## 1. 町内における開発と遺跡の異動

### (1) 町内における開発と発掘調査

本町における2007年度（平成19年度）の民間開発行為等による埋蔵文化財発掘届（第93条）は53件、地方公共団体等による通知（第94条）は18件で、計71件を数える。ここ3年の発掘届は40件台で、発掘通知件数を合わせると50～60件となり、今年度は発掘届件数がやや多い。

今年度の発掘調査は22件である。このうち田原本町教育委員会が実施した発掘調査は20件で、その内訳は公共事業7件、民間開発8件、個人住宅の建築5件である。

第1表 田原本町における2007年度の発掘届・発掘通知件数一覧

発掘届 93条	発掘通知 94条	発掘調査			工事立会	積重工事
		通知内容		22		
		実施分	町20（試掘2） 県2	25		

第2表 田原本町の発掘届・通知と発掘調査件数の推移

	'00	'01	'02	'03	'04	'05	'06	'07
発掘届（93条）	22	29	25	44	45	43	43	53
発掘通知（94条）	5	20	11	13	18	8	17	18
計	27	49	36	57	63	51	60	71
調査件数	町	15	19	18	18	14	12	12
	県	1	1	1	3	0	4	4
町内総調査件数	16	20	19	21	14	16	16	20

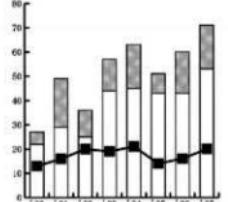
第3表 町教育委員会が実施した発掘調査の原因別推移

調査原因	'00								
	'01	'02	'03	'04	'05	'06	'07		
範囲確認	3	2	2	4	3	2	0	0	0
個人住宅	3	4	11	7	8	7	4	5	5
農業用倉庫等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
公共事業	5	6	5	5	4	5	6	7	7
民間開発	1	2	0	1	0	1	2	5	5
その他	0	1	1	1	3	1	0	3	3
計	12	15	19	18	18	16	12	20	20

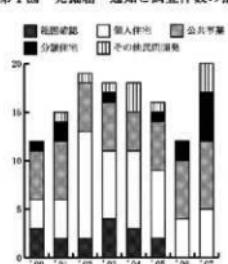
第4表 町教育委員会による発掘調査の面積と出土遺物数の推移

	'00	'01	'02	'03	'04	'05	'06	'07
総調査面積（m <sup>2</sup> ）	1,535	6,314	2,988	1,262	1,235	1,030	986	1,300
1件あたりの調査面積（m <sup>2</sup> ）	127	420	157	70	69	74	82	70
出土遺物数（個）	799	354	783	532	314	104	95	146

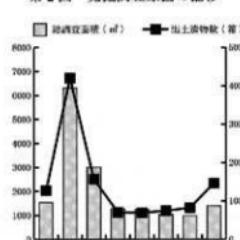
第1図 発掘届・通知と調査件数の推移



第2図 発掘調査原因の推移



第3図 調査面積と出土遺物数の推移



第3図 調査面積と出土遺物数の推移

## (2) 遺跡の異動

平成18年度の発掘調査・試掘調査の成果に基づき、平成19年度に遺跡の異動の報告があった。

**小阪安田前遺跡（1）（第4図）** 昨年度に町教育委員会が試掘調査をおこなった結果（S-200604）、古墳時代の可能性がある溝や中世の土坑・大溝などを検出した。この成果から、調査地周辺を中世集落「小阪安田前遺跡」として遺跡の新規確認をおこなった。

**小阪細長遺跡（2）** 小阪細長1号墳・小阪細長2号墳（4）（第4図） 奈良県立橿原考古学研究所の調査成果をもとに、中世の遺物散布地を「小阪細長遺跡」として認識した。また、2基の方形区画墓（方墳）を「小阪細長1号墳」「同2号墳」とした。

**法貴寺齊宮前遺跡（3）（第4図）** 奈良県立橿原考古学研究所の調査で、弥生時代中期を中心とした集落遺構や庄内～布留期の古墳・方形周溝墓となる可能性がある遺構群を検出した。この成果から遺跡範囲を南側へ拡大することとなった。

**羽子田古墳群（5）（第5図・第6表）** 新規発見の古墳7基を羽子田16号墳～22号墳とした。

**羽子田遺跡（6）（第5図）** 遺跡南端の第30次調査で弥生時代後期～古墳時代初期の各期の遺構群、古代の遺物包含層を検出したことから、遺跡範囲を南西側へ拡げた。

**清水風遺跡（7）（第6図）** 遺跡東端で実施した第5次調査で、古墳時代から古代の遺構・遺物を検出した。この成果を受け、小字「奥西」と「磯垣内」を遺跡範囲に含めることとした。

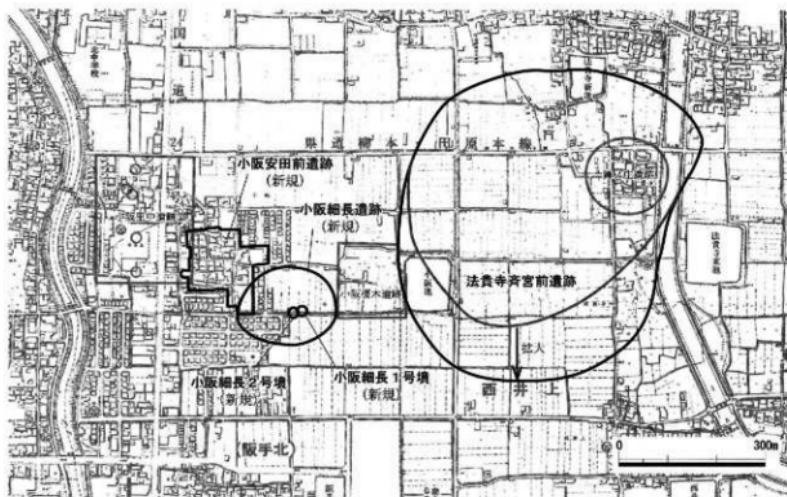
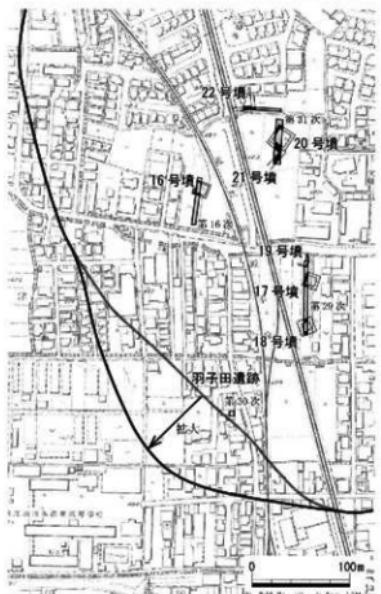
**阪手北環濠遺跡（8）・阪手北遺跡（9）** 阪手北地区の遺跡が、複合遺跡であることが判明したため、当初の阪手北環濠遺跡から阪手北遺跡に分離独立させ、遺跡範囲を変更した。

第5表 出原本町内における遺跡の異動一覧

遺跡名	異動原因	異動内容	報告	報告日	通知
1 小阪安田前遺跡	試掘調査	新規確認	田教文 第76-1号	H19.5.18	教文 第7002号
2 小阪細長遺跡	小阪細長本第3次調査	新規確認	考 研 第5号-03	H19.6.21	教文 第7048号
3 法貴寺齊宮前遺跡	第7次調査	範囲拡大	考 研 第5号-04	H19.6.21	教文 第7049号
4 小阪細長1号墳	小阪細長2号墳	新規確認	考 研 第5号-05	H19.6.21	教文 第7050号
5 羽子田古墳群（16～22号墳） 〔詳細は第6表〕	第16・29・31次調査	新規確認	田教文 第76-2～8号	H19.5.18	教文 第7009号～ 第7015号
6 羽子田遺跡	第30次調査	範囲拡大	田教文 第76-9号	H19.5.18	教文 第7016号
7 清水風遺跡	第5次調査	範囲拡大	田教文 第76-10号	H19.5.18	教文 第7017号
8 阪手北環濠遺跡	第5次調査	範囲変更	田教文 第76-11号	H19.5.18	教文 第7018号
9 阪手北遺跡	第3次調査	新規確認	田教文 第76-12号	H19.5.18	教文 第7019号

第6表 羽子田古墳群 新規確認古墳一覧

	調査次数	墳形	規模	出土遺物・備考	時期
16号墳	16次	方墳？	不明	須恵器・埴輪（円筒？）	5 c 来？
17号墳	29次	方墳？	11m前後	須恵器	6 c 前半？
18号墳	29次	方墳？	8 m前後	古式土師器	布留
19号墳	29次	方墳？	9 m以上	土師器	前期来？
20号墳	31次	方墳？	14m前後	須恵器・埴輪（家形）	6 c 後半
21号墳	31次	方墳？	不明	小形素文鏡、圓錐内供献施設	5 c 中頃
22号墳	31次	不明	不明	土師器・埴輪（円筒・家形）	6 c ?

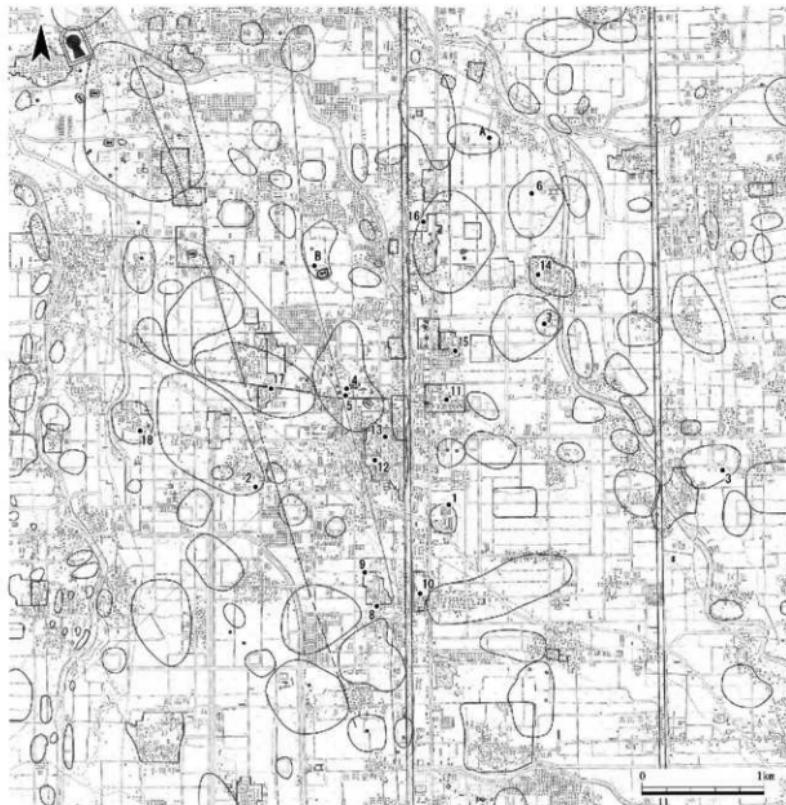
第4図 小阪及び法貴寺地区における遺跡の異動 ( $S = 1/10,000$ )第5図 羽子田遺跡・古墳群の異動 ( $S = 1/5,000$ )第6図 清水風遺跡の異動 ( $S = 1/5,000$ )

## 2. 埋蔵文化財の調査

### (1) 発掘調査の概要

**弥生時代～古墳時代** 本年度の調査では、当時期の集落・古墳・製作遺跡で成果を得ることができた。羽子田遺跡の各調査では、弥生時代後期から古墳時代前期までの集落遺構と古墳時代中後期の古墳を検出した。十六面・薬王寺遺跡の調査においても方墳2基を確認し、方墳の周濠間に木棺墓を検出した。棺内に人骨は残存していなかったが、少量の齒と滑石製管玉、堅櫛がみられた。秦楽寺遺跡では滑石をはじめとする各種玉製品や未成品・砥石等の玉作り関連遺物が出土し、古墳時代中後期に玉生産がおこなわれていたことが確実となった。

**古代・中世・近世** 羽子田遺跡では古代道路の保津・阪手道に間連する遺構を検出している。



第7図 田原本町の遺跡と調査地点

近世では社寺の調査で重要な成果を得た。法貴寺遺跡の調査は寺院本堂の再建に伴うもので、建物解体に先立つて建造物調査をおこない、解体後発掘調査を実施した。建築学・考古学の両手法により建物の創建年代や築造過程等が判明した。寺内町遺跡第10次調査は神社拝殿の再建に伴うものである。拝殿は少なくとも3度の建て替えがおこなわれたことが判明した。

第7表 2007年度 発掘調査一覧表

遺跡名	調査次数	調査区域	原因	調査期間	実働日数	調査面積	時期	調査担当	
1 阿手	第5次	田原本町飯子 711番,742番,743番	宅地分譲	辻木木材収集 (受託事業)	2008.1.25 ~1.31	5日	66m <sup>2</sup>	弥生・中世 近世	立谷
2 十六面 ・菅原王	第24次	H1田原本町東玉寺346番1	宅地分譲	御たけむらハウジング (受託事業)	2008.2.25 ~3.22	19日	178m <sup>2</sup>	弥生・古墳 中世	清水 奥谷
3 為川南方	第2次	田原本町為川南方6番1	轟帶加藤地 局の建築	エヌ・ティ・ティ (受託事業)	2007.8.29 ~8.31	3日	25m <sup>2</sup>	弥生・中世 近世	清水
4 羽子田	第32次	H1田原本町新町 96番,1,115番1	宅地分譲	竹村興業 (受託事業)	2007.12.4 ~08.1.10	20日	250m <sup>2</sup>	弥生・古墳 中世・近世	清水 奥谷
5 羽子田	第33次	田原本町新町217番1	個人住宅の 建築	個人 (受託事業)	2008.1.15 ~2.13	18日	250m <sup>2</sup>	弥生・古墳 古代・中世 近世	清水
6 法貴寺北	第6次	田原本町法貴寺1186番1他 水銀道路	道路改良工事	田原本町 (益英記典調)	2007.12.10 ~12.21	10日	77m <sup>2</sup>	古墳・中世 近世	立谷
7 舞ノ庄	第2次	田原本町法貴寺663番17号 西側道路	下水道工事	田原本町 (下水道課)	2007.10.22	1日	65m <sup>2</sup>	古代・中世	立谷 清水 奥谷
8 妙楽寺	第2次	田原本町妙楽寺291番地 南側道路	F水道工事	田原本町 (下水道課)	2007.7.9 ~7.11	2日	10m <sup>2</sup>	近世	清水
9 金剛寺	第3次	田原本町金剛寺 236番1,236番10	下水道の改修	田原本町 (農業補助課)	2008.1.30 ~2.28	18日	146m <sup>2</sup>	古墳・中世 近世	奥谷
10 光光寺 垂足地	第6次	田原本町千代324番4	個人住宅の 建築	個人 (国庫補助事業)	2007.11.7 ~11.8	2日	13m <sup>2</sup>	中世	立谷
11 阿手北	第6次	田原本町阿手198番4	個人住宅の 建築	個人 (国庫補助事業)	2007.11.26 ~11.27	2日	11m <sup>2</sup>	中世・近世	清水
12 寺内町	第10次	田原本町649番	神社拝殿の 建築	津島神社 (受託事業)	2007.4.23 ~6.8	29日	77m <sup>2</sup>	弥生・中世 近世	清水 奥谷
13 寺内町	第11次	田原本町645番	個人住宅の 建築	個人 (国庫補助事業)	2007.4.25 ~4.27	3日	10m <sup>2</sup>	古代・中世 近世・近代	奥谷
14 法貴寺	第6次	田原本町法貴寺1568番4	寺院本堂の 建築	萬光寺 (受託事業)	2007.11.7 ~11.16	9日	110m <sup>2</sup>	古墳	清水 奥谷
15 小原 安田前	第1次	田原本町小原317番2	個人住宅の 建築	個人 (国庫補助事業)	2007.12.4 ~12.5	2日	12.5m <sup>2</sup>	近世	立谷
16 岩古・瀬	第103次	田原本町岩古69番1	下水道工事	田原本町 (下水道課)	2007.7.9 ~7.12	2日	5m <sup>2</sup>	中世・近世	奥谷
17 保津 ・菅古	第36次	田原本町保津120番	個人住宅の 建築	個人 (国庫補助事業)	2007.5.15 ~5.18	3日	12m <sup>2</sup>	中世・近世	奥谷
18 西竹田	第3次	田原本町西竹田201番地 北側道路	下水道工事	田原本町 (下水道課)	2007.8.21 ~8.22	2日	6m <sup>2</sup>	近世	清水

第8表 2007年度 他機関による町内発掘調査一覧表

遺跡名	調査次数	調査地	原因	調査面積	調査機関
A 八出	第2次	田原本町八出	大和紀伊野農業水利事業	300m <sup>2</sup>	奈良県立橿原考古学研究所
B 佐錦山古墳群 (笠錦山2号墳)	第8次	田原本町八尾地内	県道崎崎田原木線沿幅	40m <sup>2</sup>	奈良県立橿原考古学研究所

## 1. 阪手遺跡 第5次調査

(弥生・中世)

所 在 地 田原本町大字阪手小字八ノ坪741番,742番,743番 調査面積 66m<sup>2</sup>  
調査原因 宅地分譲(分譲住宅の造成) 担 当 者 豆谷和之  
調査期間 2008.1.25~1.31 遺 物 量 2箱

### 位置・環境

阪手遺跡は田原本町のはば中央、標高51m前後の沖積地に位置する。これまで4次にわたる調査がおこなわれている。このうち、昭和57年度に奈良県立橿原考古学研究所によっておこなわれた第1次発掘調査では、弥生時代後期と考えられる井堰及び水路が検出されている。

今回の調査地は、第1次調査地より北へ約50mに位置する。遺跡範囲の北端であるため、分譲住宅予定地の東西道路部分について3ヶ所の試掘調査をおこなった。第2(中央)・第3(東端)トレンチで溝及び土坑を検出した。このため本調査に切りかえ、上記トレンチについて東西方向での拡張をおこなった。

### 調査概要

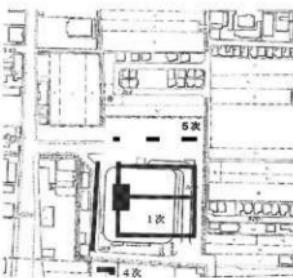
弥生時代:溝2条、土坑2基

中世:素掘小溝

今回の調査では、第2・3トレンチにおいて溝・土坑を検出している。第3トレンチで検出した大溝は、肩に杭をうち護岸していたが、遺物は出土せず時期は不明である。一方、第2トレンチで検出した溝は、弥生時代後期末の土坑に切られており、それ以前と想定される。

### まとめ

今回の調査によって、遺跡範囲の北端にも溝等の造構分布が明らかとなった。第1次調査の堰ともあわせ、水田造構としての検討が必要であろう。これまで不明であった田原本町における弥生時代生産域解明の手掛かりを与えてくれるものと期待される。周辺での地道な調査が必要である。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 第2トレンチ全景 (西から)



3. 第3トレンチ全景 (東から)

## 2. 十六面・薬王寺遺跡 第24次調査

(弥生・古墳・中世)

所在 地 田原本町大字薬王寺小字井坪346番1

調査面積 178m<sup>2</sup>

調査原因 宅地分譲

担当者 清水琢哉・奥谷知日朗

調査期間 2008.2.25~3.22

遺物量 19箱

## 位置・環境

十六面・薬王寺遺跡は、奈良盆地の中央、標高47m前後の沖積地に位置する。本遺跡では、遺跡北西部の中世集落（城館）跡、南西部の古墳時代中・後期集落跡、遺跡東南部の弥生時代末～古墳時代の墓域がそれぞれ確認されているほか、遺跡北部には古代の水田跡も拡がる。

今回の調査は、遺跡南東部での宅地分譲に伴って実施した。北側隣接地では弥生時代末の円形周溝墓・河跡等を検出しており、本調査地でも一連の遺構が拡がるとみられた。

## 調査概要

弥生時代後期：溝2条、柱穴1基、河跡1条

古墳時代中後期：方墳2基、木棺墓1

中世：素掘小溝群

調査により、古墳時代中・後期の墓域を検出した。方墳2基のうち、規模が判明している1基は1辺7m程度の小規模なものである。

木棺墓は、2基の方墳の間で検出した。墓壙の主軸は北西-南東方向で、長軸3m、短軸0.65m、深さ0.4mを測る。棺身は浅い削竹形で、全長245cm、幅55cm、高さ15cmを測る。棺蓋は風化が激しく、土圧による変形もあって正確な形態は復元し難い。いずれもコウヤマキ製である。棺内南東側で歯と滑石管玉6点・堅櫛1点が出上した。出土した遺物の時期から、古墳時代前期末頃の遺構と考えられる（第IV部、79頁参照）。

## まとめ

今回の調査では、古墳時代前期末～後期の墓域に関わる遺構を検出した。また、弥生時代後期の河跡が調査地全体に拡がっていることも確認することができた。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 調査区全景（東から）



3. 木棺墓（北西から）

### 3. 為川南方遺跡 第2次調査

(弥生・中世・近世)

所 在 地 田原本町大字為川南方小字茶木 6番1

調査面積 25m<sup>2</sup>

調査原因 携帯無線基地局の建築

担当者 清水琢哉

調査期間 2007.8.29~8.31

遺 物 量 1箱

#### 位置・環境

為川南方遺跡は、標高57m前後の沖積地に立地する。西側には初瀬川右岸に築かれた中世の平城「藏堂城」と推定される藏堂遺跡が所在する。また、遺跡中央の字「中西」は東大寺雜役免庄「中西庄」の候補地の1つとなっている。

本遺跡では、遺跡中央の字「中西」南側隣接地で第1次調査が実施されており、弥生時代の河跡、奈良時代の土坑、室町時代の道路跡を検出している。今回の調査地は、遺跡の南東部、第1次調査地の東側100mに位置する。

#### 調査概要

弥生時代：溝1条、落ち込み1

中近世：素掘小溝群

調査区南半で検出した東西方向の溝SD-101は弥生時代後期頃の造構とみられる。幅0.6m、深さ0.2mを測る。粗砂で埋没する。落ち込みは時期不明であるが、SD-101に切られる。

調査区全体にわたって南北方向の素掘小溝8条を検出した。遺物が極めて少ないため、詳細な時期は明らかでない。中世～近世の造構とみられる。

#### まとめ

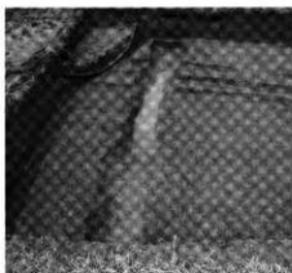
今回の調査では、第1次調査で検出した奈良時代及び室町時代の造構は検出しなかった。弥生時代の溝SD-101は、周囲の状況に不明な点が多いためその性格を判断することは困難であるが、耕地に伴う水路などの機能などが想定される。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 調査区全景 (北から)



3. 弥生時代の溝 (東から)

## 4. 羽子田遺跡 第32次調査

(弥生・古墳・中世・近世)

所 在 地 田原本町大字新町小字池ノ内96番1、113番1 調査面積 250m<sup>2</sup>

調査原因 宅地分譲 担 当 者 清水琢哉・奥谷知日朗

調査期間 2007.12.4 ~ 2008.1.10 遺 物 量 47箱

## 位置・環境

羽子田遺跡は、奈良盆地の中央、標高48m前後の沖積地に位置する。これまでの調査により、弥生時代～古墳時代前期の集落及び古墳時代中・後期の古墳群からなる複合遺跡であることが判明している。

今回の調査は、遺跡ほぼ中央での宅地開発に伴って実施した。周囲の調査地で集落遺構及び古墳を多数検出していることから、本調査地においてもこれに関連する遺構が濃密に分布することが予想された。

## 調査概要

弥生時代後期：土坑2基、溝4条

古墳時代初頭：土坑1基、溝5条

古墳時代前期：溝3条

古墳時代後期：古墳2基

中 近 世：溝5条、素掘小溝群

調査により、弥生時代後期後半～布留期の溝などを検出した。特に布留期の溝SD-101からは小形精製器種を中心とした土器がまとめて出土した。

羽子田古墳群に属する古墳を2基検出した。方墳及び円墳とみられるが、いずれも部分的な検出であり、墳形及び時期については慎重な検討が必要である。

## まとめ

今回の調査では、溝（落ち込み？）から弥生時代後期後半及び布留1式頃の遺物が多数出土した。南側に隣接する第31次調査地点には庄内期の井戸や柱穴が分布し、東側に隣接する第6次調査地点には布留期の井戸等が分布する。本調査地はこれらの集落遺構密集地の間に存在する微低地的な部分に相当し、溝及び落ち込み状の遺構が繰り返し掘削されたものと考えられる。



## 5. 羽子田遺跡 第33次調査

(弥生・古墳・古代・中世・近世)

所 在 地 田原本町大字新町小字エブナ217番1

調査面積 250m<sup>2</sup>

調査原因 共同住宅の建築

担当者 清水琢哉

調査期間 2008.1.15~2.13

遺 物 量 21箱

### 位置・環境

今回の調査地は、遺跡のはば中央に位置する。北側隣接地の第31次調査では、弥生時代末～古墳時代前期の集落遺構の密集地であることが確認されている一方で、南側隣接地の第29次調査では方墳以外の遺構が散漫であることが判明している。従って、今回の調査によって集落遺構密集地の拡がりが確認できると考えられた。

### 調査概要

弥生時代末～：大溝1条、小溝7条、河跡？1条  
古墳時代初頭

古墳時代前期：井戸2基、河跡1条、柱穴群

古墳時代後期：古墳3基

古代？：溝1条

中近世：溝1条、柱穴群、素掘小溝群

### まとめ

今回の調査では、古墳時代前期の集落及び古墳時代前期末～後期の方墳等を検出した。北側隣接地の集落遺構は弥生時代後期末～庄内新段階に位置づけられるが、今回の調査で検出した井戸は布留1式の遺構である。広範囲に散在する布留期の集落は本調査地においても認められるものの、第31・32次調査で検出した弥生時代末～庄内期の集落としては周縁部にちかい状況とみられる。

このほか、古墳時代前期末～後期の方墳3基を検出した。羽子田古墳群が方墳を中心に本調査地にも点在することを確認した。

なお、古代道路跡「保津・阪手道」に伴う可能性のある古代の溝は、他地点と比較して小規模なものであった。この道路跡の規模と構造については今後も継続して調査することで明らかにしていく必要がある。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 調査区全景 (南から)



3. 方墳 (北から)

## 6. 法貴寺北遺跡 第6次調査

(古墳・中世)

所 在 地	田原本町大字法貴寺小字ヒマンテン1186番1他東側道路	調査面積	77m <sup>2</sup>
調査原因	道路改良工事	担当者	豆谷和之
調査期間	2007.12.10~12.21	遺 物 量	3 箱

## 位置・環境

法貴寺北遺跡は、標高48m前後の沖積地に立地する。県立志貴高等学校の建設に伴う第1次調査では、弥生時代後期の方形周溝墓2基・壇棺墓2基、古墳時代前期の土壙墓1基などが検出されている。また、第3～5次発掘調査の成果が追加されたことによって、志貴高等学校の南側には弥生～古墳時代の河跡と中世の素掘小溝群の拡がることが明らかとなった。

今回は、志貴高等学校の西側を走る南北道路の西側擁壁部分について、昨年度第4次調査をおこなったその北側延長部分244mが調査対象となった。調査は、これまでの調査成果から付近が河跡堆積内であると予想されたため、約10m間隔で2×2mのトレンチを24ヶ所設定し、遺物包含層及び遺構面の把握をおこなった。

## 調査概要

古墳時代：土坑2基、柱穴11基、落ち込み2、河跡  
中 世：素掘小溝群

調査区の大半は、河跡堆積内である。部分的に古墳時代初頭の遺物を含む落ち込みが形成されている。ただし、工事区間北端30mについては安定したベース層があり、この部分については調査区を拡張して古墳時代の柱穴や土坑を検出した。

## まとめ

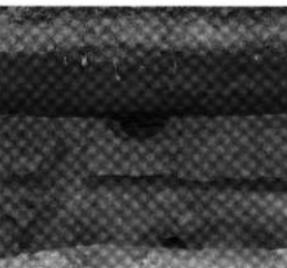
2年度にわたる道路改良工事によって、法貴寺北遺跡の中央を約400mにわたって南北に縱断する10m間隔のグリッドを入れることとなった。その結果、法貴寺北遺跡の中央部には、南東から北西に向かう谷地形の横たわることが判明した。安定したベース層の拡がりは、志貴高等学校敷地内に限定される可能性が高い。



1. 調査地点の位置 (1:10,000)



2. 第23トレンチ全景 (北から)



3. 古墳時代の柱穴 (東から)

## 7. 舞ノ庄遺跡 第2次調査

(古代・中世)

所 在 地	田原本町大字法貴寺小字海ノ上663番17他西側道路	調査面積	6.5m <sup>2</sup>
調査原因	下水道工事	担当者	豆谷和之・清水琢哉・奥谷知日朗
調査期間	2007.10.22	遺 物 量	1 箱

### 位置・環境

舞ノ庄遺跡は、奈良盆地の中央、標高51m前後の沖積地に位置する。江戸時代中期に廃絶した「ウミノヘ」あるいは「舞庄」と呼ばれる集落の跡地とされる。昭和57年の水害を契機とする初瀬川の大規模な改修工事に伴い、法貴寺地区の初瀬川を付け替えることとなった。この工事により立ち退くこととなった法貴寺地区の住民の移転先として小字「海ノ上」地区が選ばれ、宅地開発に先立って奈良県立橿原考古学研究所による発掘調査が実施された。その結果、弥生時代から近世にかけての遺構が多数検出された。

今回の調査は、公共下水道工事に伴うものである。字「海ノ上」の西側隣接道路での立坑2ヶ所で発掘調査を実施した。

### 調査概要

古代：河跡1条

中世：土坑1基、井戸1基、小溝1条

立坑2ヶ所で調査をおこなった。北側の第1トレンチでは古代の河跡・中世の土坑等を検出したが、南側の第2トレンチでは顕著な遺構を検出することができなかつた。いずれのトレンチも古墳時代の遺物を含む河川堆積が括がっており、付近が旧初瀬川の氾濫原であった可能性が考えられる。

### まとめ

今回の調査では、奈良時代の河跡及び中世の土坑等を検出した。ただし、2ヶ所の調査区とともに旧初瀬川とみられる河川堆積が括がっており、第1次調査地のような安定した地盤ではないことが明らかとなつた。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 第1トレント完掘 (東から)



3. 第2トレント完掘 (東から)

## 8. 秦楽寺遺跡 第2次調査

(近世)

所 在 地	田原本町大字秦庄小字南垣内291番地南側道路	調査面積	10m <sup>2</sup>
調査原因	下水道工事	担当者	清水琢哉
調査期間	2007.7.9 ~ 7.11	遺 物 量	2 箱

## 位置・環境

秦楽寺遺跡は、奈良盆地の中央、標高52m前後の沖積地に位置する。遺跡の中央に位置する秦楽寺は、秦河勝の創建と伝えられる古刹である。中世頃には秦楽寺を中心とする集落が形成され、中世後期には周囲に濠をめぐらせて「秦楽寺城」と称される在地勢力を形成するに至るが、松永久秀により攻略され、伽藍の大半が灰燼に帰したという。江戸時代に再興されて現在に至る。

今回は、遺跡南側隣接地でおこなわれた下水道工事に伴う調査である。人坑部分3ヶ所を発掘調査で対応し、下水管埋設に伴う開削部分等は工事立会で対応した。

## 調査概要

近世～現代：大溝1条

各調査区で東西方向の大溝を検出した。秦庄集落の中心部分と南垣内との間を画する環濠とみられる。

## まとめ

今回の調査では、近世～現代の集落構造を把握する上で重要な成果が得られた。また、中世後期頃の遺物が溝内より多く出土しており、近世大溝の前身遺構として中世大溝が存在した可能性も考えられる。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 第1トレンチ全景（東から）



3. 第3トレンチ全景（東から）

## 9. 秦楽寺遺跡 第3次調査

(古墳・中世・近世)

所 在 地 田原本町大字秦庄小字才田236番1.10

調査面積 146nf

調査原因 溝池の改修

担当者 奥谷知日朗

調査期間 2008.1.30~2.28

遺 物 量 11箱

### 位置・環境

秦楽寺の北側には面積約3,000m<sup>2</sup>の農業用溜池「秦楽寺池」がある。この池の正確な築造年代は不明であるが、享保十四年（1729）の溜池新設請願書が現存しており、これ以降に造られたものとみられている。

今回の調査は、池の護岸工事に伴うものである。昨年度に試掘調査をおこなった結果、池の南岸及び西岸に古墳時代の遺構が分布することが判明した。この成果を受け、今年度は池の北岸・西岸について調査をおこなうこととなった。遺構の分布状況から、池の北岸には5ヶ所の部分的な調査区を設定し、西岸は工事範囲全域を調査区とした。

### 調査概要

古墳時代中期：小溝3条、柱穴9基

古墳時代後期：土坑1基、溝1条、落ち込み1

中世前期：土坑2基

中世後期：溝（濠）

近世～現代：池1面

池西岸にある第6トレンチでは、古墳時代の遺物包含層及び遺構を検出し、多くの石製玉類や関連遺物が出土した（第IV部、113頁参照）。中世前期の土坑2基は池北西端の第5トレンチで検出した。溝は中世秦楽寺城の濠とみられる。

### まとめ

今回の調査により、古墳時代の玉作り関連遺物を確認した。当該時期の玉作り遺跡としては町内でも初めての事例となる。工房等の顕著な遺構は検出されず、玉生産の時期を確定することはできないが、5世紀後半～6世紀代とみられる。



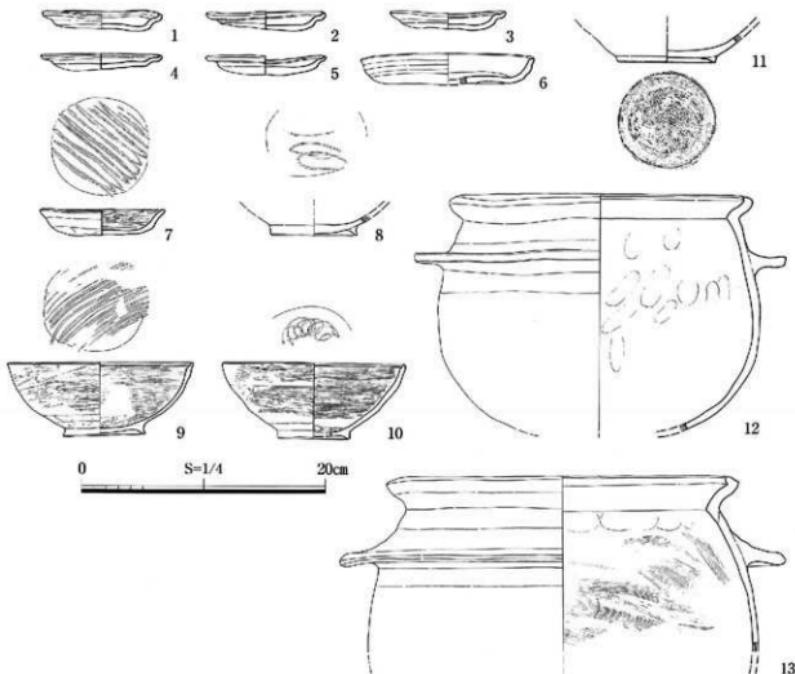
1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 第6トレンチ全景 (南から)



3. 中世の土坑 (南から)



### 秦楽寺城形成以前

秦楽寺池の北西隅にあたる第5トレーニチにおいて、中世の土坑SK-5051を検出した。土坑は湧水層を掘り抜いていることから井戸と考えられる。中層からは半完形の土器群や礫が出土しており、その一部を示す。

1～5は土師器小皿。6は土師器中皿。7は瓦器小皿。8～10は瓦器甕。11は山茶碗。12・13は土師質の羽釜である。これらは11世紀末～12世紀初頭とみられる。

中世秦楽寺城の濠はこの土坑を切って掘削されていることから、秦楽寺城の形成以前には周辺に中世前期の集落が存在した可能性が示唆される。

### Column 1

秦樂寺遺跡 第3次調査  
～平安時代～

## 10. 日光寺推定地 第6次調査

(中世)

所 在 地 田原本町大字千代小字日光寺324番4

調査面積 13m<sup>2</sup>

調査原因 個人住宅の建築

担当者 豆谷和之

調査期間 2007.11.7~11.8

遺 物 量 1箱

### 位置・環境

日光寺推定地は、標高51.5m前後の沖積地に立地する。周辺には、「日光寺」「中殿」「極楽」「今殿」といった小字名が残っていることから、中世寺院と推定される遺跡である。これまで5次にわたる調査では、11~13世紀を中心とした遺構を検出している。

### 調査概要

中 世：大溝 1 条

調査区の下層全体には、青灰色粘土が抜がっていた。この青灰色粘土は、土器を含んでおり地山ではない。おそらくは、大溝の堆積土と考えられる。大溝については、本調査区内で肩を検出することはできず、底面まで掘り下げていないので、規模・時期等その詳細は不明である。ただし、青灰色粘土との間に明褐色砂（ハード）を挟んだ上層では、西側は粘質土で東側は砂の堆積とする明瞭な南北のラインとなって現れることから、上層堆積に影響を与えた下層溝は南北方向の大溝であったと想定される。調査区の東西幅では肩を検出できないことから、大溝の幅は2m以上である。深さは、検出面から約1mでも底面は検出できず、それ以上である。

### まとめ

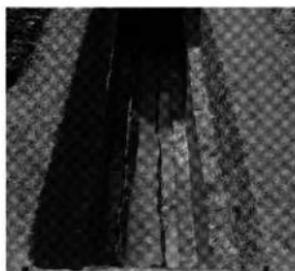
今回の調査は、調査区全体が中世の南北大溝と考えられる青灰色粘土の落ち込み内であった。出土遺物も少なく、日光寺の手掛かりを得るには至らなかった。ただ、青灰色粘土から出土した中世瓦片から想像を逞しくするならば、寺域の西限を画した南北大溝の可能性も考える。周辺のデーターの蓄積が必要である。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 調査区全景 (南から)



3. 中世の大溝 (北から)

## 11. 阪手北遺跡 第6次調査

(中世・近代)

所在 地 田原本町大字阪手小字林昭198番4

調査面積 11m<sup>2</sup>

調査原因 個人住宅の建築

担当者 清水琢哉

調査期間 2007.11.26~11.27

遺物量 1箱

## 位置・環境

阪手北遺跡は、奈良盆地の中央、標高50m前後の沖積地に位置する。遺跡の大半を占める現阪手北集落は近世以来の環濠集落で、中世に遡る可能性も考えられる。また、遺跡北部には「塚」跡が2ヶ所あり、その付近で実施した阪手北遺跡第3次調査で奈良時代～鎌倉時代の遺構・遺物を検出している。特に、墨書き器と石製鍔帶の出土は、この遺跡が官衙に関わるものである可能性を示唆する。

今回の調査は、遺跡北部、第3次調査地点の南側隣接地で実施した。その位置から、古代関連の遺構が抜がることが期待された。

## 調査概要

中世：素掘小溝群

近代：土坑1基、落ち込み1

## まとめ

調査の結果、本調査地が中世以来の耕地であることが判明した。遺物が僅少で、北側隣接地の第3次調査地点とは大きな相違がある。このことから、第3次調査地点の古代関連遺構は「塚」を中心とした極めて狭い範囲のものであったと考えるのが妥当であろう。

本調査地は近代に至って造成がおこなわれたとみられる。阪手北環濠集落の北側環濠が埋め立てられ、宅地が環濠外へと拡がっていったのであろう。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 近代の落ち込み (北から)



3. 調査区全景 (北から)

## 12. 寺内町遺跡 第10次調査

(弥生・中世・近世)

所在地 田原本町小字九軒町549番

調査面積 77m<sup>2</sup>

調査原因 神社拝殿の建築

担当者 清水琢哉・奥谷知日朗

調査期間 2007.4.23~6.8

遺物量 26箱

### 位置・環境

寺内町遺跡は、奈良盆地の中央、標高50m前後の沖積地に位置する。津島神社は、寺内町の南西端に祀られた鎮守社で、近世までは祇園社と呼ばれていた。平安時代頃の祇園信仰の隆盛に伴って勧進されたものであろう。近世に至り、祇園社に加えて17世紀後半に八幡社が、18世紀初頭に春日社が勧進されて現在の本殿3棟の形が整ったという。

今回の調査は、津島神社拝殿の改築に伴って実施した。拝殿は慶応二年（1866）に改築されたもので、幕末期の造構及びその前身造構を確認できることが期待された。

### 調査概要

中世前半：落ち込み（大溝？）1

中世後半：土坑3基

近世～近代：拝殿（建て替え3回）

鎌倉時代の落ち込み？最上層からは、土師皿多数が出士しており、何らかの祭祀行為がおこなわれていた可能性がある。

慶応二年の拝殿改築に伴うとみられる地鎮造構を検出した。合わせて土師皿5組が方形の小土坑に埋納され、うち2組の土師皿内には粉殻が残る。

なお、拝殿基壇の造成土には、弥生時代前期～中期の土器・石器が多数含まれており、付近に当該期の遺跡が存在していた可能性が考えられる。

### まとめ

調査の結果、17世紀代以降の津島神社拝殿の変遷が明らかとなった。また、前身造構として中世の造構を検出したが、これは寺内町造営以前の楽田寺門前町に関わる造構である可能性もあり、慎重な検討が必要である。



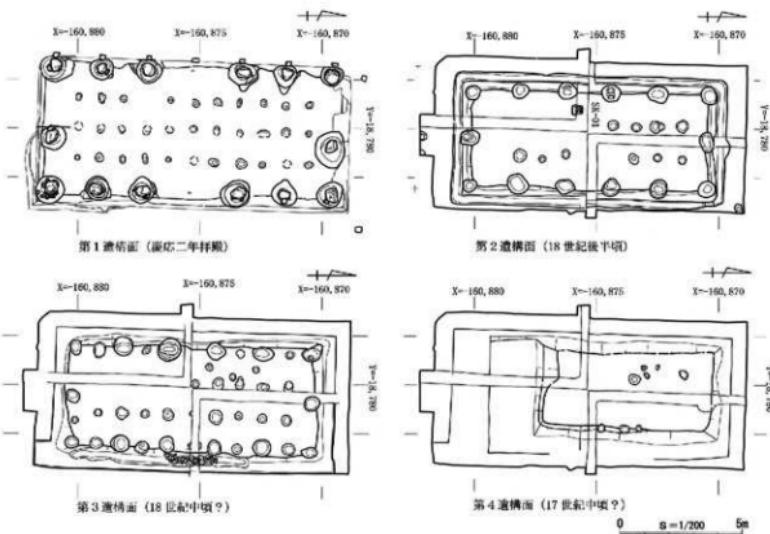
1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 18世紀中頃の拝殿（南から）



3. 慶応二年の拝殿（南から）



## 津島神社（祇園社）拝殿の変遷

今回の調査により、17世紀後半から19世紀後半までの200年間に亘る拝殿の変遷を確認した。

発掘調査前に解体された拝殿は、南北5間のうち中央が広くとられており、本来割拝殿の形式であったようである。また、東西2間のうち、東側の柱間より西側の柱間が1m広くとられている。

第2造構面の拝殿は、柱間がすべて均等であり、結果として慶応二年の拝殿より一回り小さくなっている。周囲には延石が配されていたとみられ、設置するための小溝が周囲にめぐっていた。

第3造構面の拝殿は、第2造構面の拝殿とほぼ同一の規模である。すべての主柱の間に添柱の礎石を据えたとみられるピットがみられた。また、正面中央の1間にに対応する部分に疊敷造構があり、階段基部などの構造物が存在した可能性が考えられる。

第4造構面では、明確な建物構造は把握していない。但し、第3造構面の基壇(10.3×5.3m)が第4造構面基壇の南側及び東側を拡張して築造されていることが確認されており、7×3.2mの基壇をもつ拝殿であったとみられる。

### Column 2

#### 寺内町遺跡 第10次調査 ～江戸時代～

各造構面の時期であるが、第1造構面が慶応二年、第2造構面が18世紀後半、第3造構面が18世紀中頃、第4造構面が17世紀中頃と推定される。

### 13. 寺内町遺跡 第11次調査

(古代・中世・近世・近代)

所 在 地 田原本町小字五反山645番

調査面積 10m<sup>2</sup>

調査原因 個人住宅の建築

担当者 奥谷知日朗

調査期間 2007.4.25~4.27

遺 物 量 2箱

#### 位置・環境

寺内町遺跡は寺川の西岸に拡がる、中世から近世の複合遺跡である。中世の田原本周辺では、在地武士の田原本氏居館・小室環濠集落・楽田寺の門前町の三者が存在したと考えられている。近世になり、田原本など7村を領した平野長泰は教行寺にその統治を委ねた。教行寺は上記の集落等を取り込んで寺内町を形成した。第2代目の長勝は領地の直接支配にのりだし、教行寺を退去させて田原本氏居館の跡地に陣屋を築いた。

今回の調査地は遺跡の中央にある。周辺の調査では、中世から近世の遺構を検出している。

#### 調査概要

古 代 ? : 落ち込み 1

中 世 後 半 : 土坑 1基、溝 1条

近 世 後 半 : 土坑 1基、柱穴 1基

近世末～近代 : 土坑 2基、柱穴 4基

古代落ち込みの上面が中世前半の遺構面とみられ、壁面観察では素掘小溝が存在する可能性がある。中世後半頃から顕著な遺構の分布や遺構包含層の形成がみられる。

#### まとめ

今回の調査では、古代?～中世前半、中世後半、近世後期、近世末～近代の4面の遺構検出面を確認したことで、近世寺内町形成以前の土地利用の変遷を明らかにした。中世前半以前は耕作地であったのが、中世後半になって宅地化し、近世に寺内町として造成がおこなわれたとみられる。

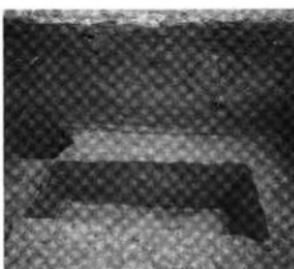
また、古代に所属する遺物の出土にも注目される。今後の調査では当該期についても留意が必要であろう。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 調査区全景 (北から)



3. 北壁堆積状況 (南から)

## 14. 法貴寺遺跡 第6次調査

(近世)

所 在 地 田原本町大字法貴寺小字北垣内1568番4 調査面積 110m<sup>2</sup>

調査原因 寺院本堂の建築 担当者 清水琢哉・奥谷知日朗

調査期間 2007.11.7 ~ 11.16 遺物量 5箱

## 位置・環境

法貴寺遺跡は、奈良盆地の中央、標高51m前後の沖積地に位置する。これまで5次にわたる調査がおこなわれており、中世の環濠をもつ屋敷跡などが検出されている。

蓮光寺は、法貴寺集落の西側、旧初瀬川河川敷の西側に接して建つ浄土真宗の寺院である。本堂は高さ9.5m、南北8m、東西10.7mを測り、享和三年（1803）の棟札をもつ。今回、老朽化の進んだ蓮光寺本堂が改築されるのに伴い、建造物調査、埋蔵文化財発掘調査等を実施することとなった。

## 調査概要

近世：本堂1棟

本堂礎石の設置状況を確認した。大半の礎石については、直径1m前後、深さ0.5m前後の穴に人頭大の礎を詰め、その上に礎石を設置する。なお、この裏込め石の一部は五輪塔残欠が用いられていた。

また、本堂の基壇にたちわりを入れ、築造方法と築造時期を確認した。基壇は厚さ5cm前後の粘質土と粗砂の互層で形成され、粘土層は極めて固く締まっている。この造成層から18世紀末頃の陶磁器が出土しており、本堂基壇の造成が棟札にある享和三年（1803）を大幅に遅るものではないことが確認できた。

## まとめ

調査では、蓮光寺本堂の基礎構造及び築造時期を確認することができた。特に、基壇版築層に18世紀末以降の陶磁器が含まれていたことから、享和三年の建築時期にちかい時期に寺地の造成がおこなわれたと考えられる。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 遺構完掘状況 (東から)



3. 磊石検出状況 (東から)

## 15. 小阪安田前遺跡 第1次調査

(近世)

所在地 田原本町大字小阪小字細長317番2

調査面積 12.5m<sup>2</sup>

調査原因 個人住宅の建築

担当者 豊谷和之

調査期間 2007.12.4~12.5

遺物量 1箱

### 位置・環境

小阪安田前遺跡は、標高49.5m前後の沖積地に立地する。遺跡は、平成18年度の試掘調査成果をもとに、小字名をとって小阪安田前遺跡とし、県に遺跡異動届（平成19年5月18日付 田教文第76-1号）を提出し、奈良県教育委員会からの平成19年5月29日付け教文第7002号で奈良県遺跡地図の記載変更についての通知によって、新たに登載された遺跡である。

本遺跡の西には小阪里中遺跡、東には小阪細長遺跡が隣接する。これらの遺跡からは、後期古墳が検出されており、本遺跡も含めて一帯に古墳群を形成していた可能性が高い。また、中世の造構として大溝を検出しておらず、宇安田前を囲う環濠であった可能性も想定される。

### 調査概要

近世：大溝1条

調査区全体が、南北方向の大溝堆積土内であった。大溝は、西肩が調査区外で東肩についても上がりきった部分を確認していないが幅3.2m以上で、断面は二段の逆台形を呈し深さ1.2mを測る。本溝からは、棧瓦や焰烙が出土した。

### まとめ

本調査区は、近世において南北方向の大溝が走っていたことが判明した。調査区の地番である小阪317番2の地割りは南北に細長く、おそらく近世屋敷地の濠部分が反映されているものと考えられる。その他の時期の遺物、古墳時代や中世のものは少なく、遺構も確認することはできなかった。調査面積が狭小のため断言はできないが、周辺の遺構・遺物は希薄であると考えられる。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 調査区全景 (北から)



3. 近世の溝堆積状況 (北東から)

## 16. 唐古・鍵遺跡 第103次調査

(中世・近世)

所 在 地 田原本町大字唐古小字柳田69番1 西側道路 調査面積 5 m<sup>2</sup>  
 調査原因 下水道工事 担 当 者 奥谷知日朗  
 調査期間 2007.7.9 ~ 7.12 遺 物 量 1 箱

## 位置・環境

唐古・鍵遺跡は標高約48mの沖積地に位置する。その占有面積は42万m<sup>2</sup>に及ぶ、弥生時代を代表する環濠集落である。これまでの調査によって、集落内部から環濠帯に至るまでの実態が解明されつつある。

今回の調査地は遺跡の北西端にあたる。周辺の調査により、本地はいわゆる「大環濠」よりも外の環濠帯部分であることが判明している。なお、中世居館跡の唐古南氏居館跡推定地とも接している。

## 調査概要

中 世：溝1条、素掘小溝2条

近世～現代：溝1条

調査は下水道立坑が設置される2ヶ所についておこなった。北側の第1トレンチでは中世の素掘小溝2条を、南側の第2トレンチでは中世溝と近世～現代溝を検出した。中世の溝は室町期とみられ、中世の豪族居館に伴うものであろう。

## まとめ

今回の調査では弥生時代の遺構を検出することができなかった。当該時期の遺物も少なく、本調査地は環濠部の外側縁辺にあるとみられる。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 第1トレンチ全景 (北から)



3. 第2トレンチ全景 (北から)

## 17. 保津・宮古遺跡 第36次調査

(中世・近世)

所 在 地 田原本町大字保津小字村内堀内120番

調査面積 12m<sup>2</sup>

調査原因 個人住宅の建築

担当者 奥谷知日期

調査期間 2007.5.15～5.18

遺 物 量 1箱

### 位置・環境

保津・宮古遺跡は標高47m前後の沖積地に広がる、绳文～古墳時代・古代・中世にまたがる複合遺跡である。

弥生～古墳時代では集落遺構が検出されているものの、散在的で、その実態は未だ不明である。古代には筋違道（太子道）と保津・阪手道が遺跡の西部で交差するよう敷設される。また、本遺跡内には中世環濠集落の保津環濠遺跡、中世寺院の常楽寺推定地が存在する。

今回の調査地は保津環濠遺跡の東側隣接地にあたる。その北側では古代道路の保津・阪手道がほぼ東西方向に走る。周辺の調査では弥生時代前期や中世前半の遺構群を確認しており、本調査でも複数時期の遺構が検出されることが予想された。

### 調査概要

中世以前：柱穴3基、素掘小溝5条

中世：素掘小溝3条

近世～現代：土坑2基

本調査区における遺構検出面は、中世以前・中世・近世～現代の3面である。各時期の遺構を検出したが、出土遺物は小片で詳細な時期を決定できない。

### まとめ

今回の調査では顕著な遺構を検出することができなかつた。しかし、出土遺物に弥生土器や埴輪、鎌倉期の瓦器塊等が含まれており、付近に各時期の遺構や埋没古墳が存在することが予想される。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 調査区全景 (西から)



3. 北壁堆積状況 (南西から)

## 18. 西竹田遺跡 第3次調査

(近世)

所 在 地	田原本町大字西竹田小字畠ノ前201番地北側道路	調査面積	6 m <sup>2</sup>
調査原因	下水道工事	担当者	清水琢哉
調査期間	2007.8.21~8.22	遺 物 量	1 箱

## 位置・環境

西竹田遺跡は、標高46m前後の沖積地に位置する。これまでの調査により、西竹田集落内の道路部分の多くが近世大溝であったこと、中世後期の大溝が現西竹田集落内各所に存在することなどが明らかとなっている。

今回の調査は、西竹田集落南環濠の外側における下水道工事に伴って実施した。

## 調査概要

近世～現代：溝2条

下水道の人坑2ヶ所で調査をおこなった。東側の第1トレチでは、南北方向の大溝の東肩を検出した（SD-1001）。西側の第2トレチでは、東西方向の大溝の南肩を検出した（SD-2001）。調査区東端の溝底で杭列を2条検出した。堰または橋脚とみられる。

## まとめ

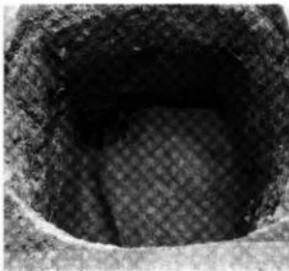
調査の結果、西竹田環濠集落南部を区画する環濠の一部を確認した。各トレチとも溝の肩部分での調査となつたため、溝の深さ等についての情報は得られなかつたが、肩の位置を明確にできたことは大きな成果であった。



1. 調査地点の位置 (1 : 5,000)



2. 第1トレチ完掘状況 (南から)

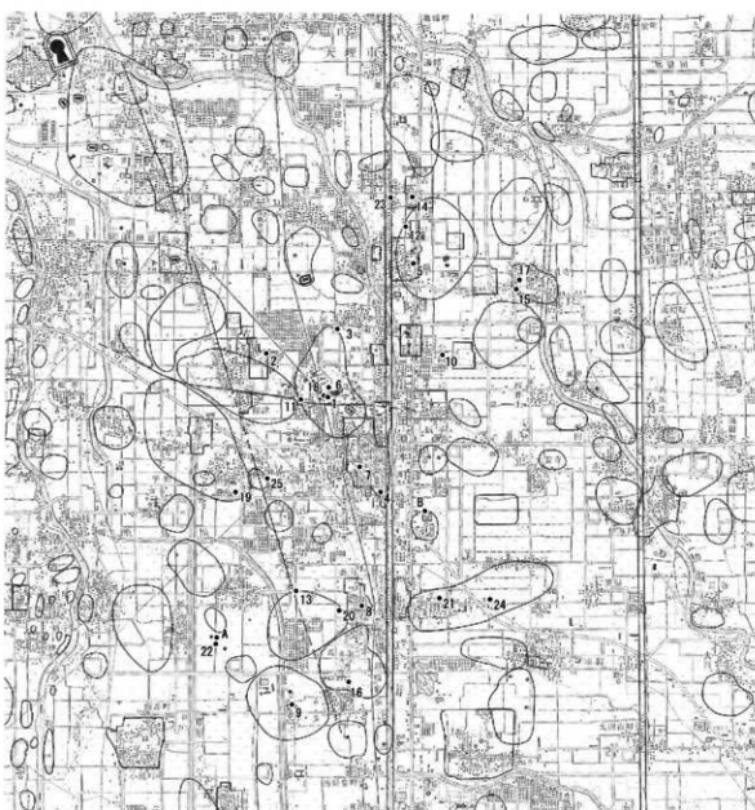


3. 第2トレチ完掘状況 (西から)

## (2) 試掘調査と工事立会の概要

2007年度に実施した試掘調査は2件、工事立会は25件で、第9・10表に示すとおりである。阪手遺跡の試掘調査は、分譲住宅の建設に伴って遺構面の深さや遺構の分布状況を確認するため実施したもので、弥生時代の溝を検出したことから本調査（阪手遺跡第5次調査）となった。ここではタカツキ古墳の試掘調査について報告する。

工事立会では、羽子田遺跡、唐古・鍵遺跡、小阪安田前遺跡で弥生～古墳時代の遺構・遺物を検出した。中世の遺構は、羽子田遺跡、寺内町遺跡、多遺跡、小阪安田前遺跡、宮森遺跡で確認している。



第8図 田原本町の遺跡と試掘調査・工事立会地点

第9表 2007年度 試掘調査一覧

番号	遺跡名	調査地	原因者	原因	測定番号 (田政文免)	進捗日	調査日	調査面積	担当者	遺物量
A	坂手遺跡 (S-200701)	田原本町坂手742番	注木木材産業 (株)	分譲住宅	118	07.12.26 ～124	08.1.22 ～124	80m <sup>2</sup>	豆谷	2箱
B	タカツキ古墳 (S-200702)	田原本町矢部403番1 東側道路	田原本町長	道路の 改良工事	122	07.12.27 ～2.6	08.2.4 ～2.6	48m <sup>2</sup>	豆谷	1箱

## 1. タカツキ古墳 試掘調査 (S-200702) (古墳・中世)

所在地 田原本町大字矢部小字高ツキ403番1 東側道路 調査面積 48m<sup>2</sup>

調査原因 道路の改良工事 担当者 豆谷和之

調査期間 2008.2.4～2.6 遺物量 1箱

## 位置・環境

タカツキ古墳は、標高49.5m前後の沖積地に立地する古墳状隆起である。水田より一段高く、現状では径20m前後の円墳状を呈する鳥畠となっている。

今回の調査地は、昨年度に矢部中曾司遺跡第1次として調査をおこなった南北道路のその南延長114m分にあたる。この部分は周知の遺跡外であるが、北側においてはタカツキ古墳との距離が15mと近接していたため、古墳東隣接地の32m分を試掘調査とし、残り部分は工事立会の対応をとった。

## 調査概要

古墳時代初頭：河跡

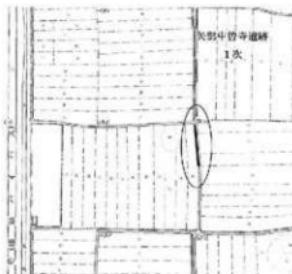
中世：素掘小溝

本調査区では、タカツキ古墳と平行する位置で黒褐色粘土上の西側への高まりを検出した。黒褐色粘土は、落ち際を中世素掘小溝によって切られ、西側に向かって緩やかな弧を描いており、あたかも墳端状を呈する。しかし、これをもって墳丘を復元するならば直径50mとなり、奈良盆地中央部の円墳としてはやや大き過ぎよう。

また、周濠にあたる落ち込みを検出できなかったことも、墳端とすることへの否定的な材料である。

## まとめ

今回の調査においては、当初想定していたタカツキ古墳に関連する遺構を検出することはできなかった。タカツキ古墳自体が古墳であるのかという検討も含め、より墳丘側での調査が必要であろう。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 調査区全景 (北から)

第10表 2007年度 工事立会一覧

遺跡名	調査地	原図者	工事の目的	施設番号 (旧文部省)	施工日	立会者	調査日	内 容
1 羽子田遺跡 (R-200701)	田原本町新町 71番地29番地	織田直幸	宅地の分譲	94	2006.11.15	清水 奥谷	2007.4.4 ～5.9	昭和後2～3月の工事でE会社-R-200622と 連絡の工事。強引-古佐代時代の遺構遺物 を破壊する。
2 雪害土塁遺跡 (R-200702)	田原本町古280番地 2	個人	青空駐車場 の造成	118	2007.3.30	清水	2007.5.18	会社時に既に工事済み。
3 羽子田遺跡 (R-200703)	田原本町八尾 605番地他	個人	青空駐車場 の造成	30	2007.5.23	豆谷	2007.5.24	昭和後西暦昭和の工事。廃瓦地より40 cm下に石垣層。その上に砂利層と土層。 2層を含む。その上層(?)で古墳・墓石を 発見。
4 岩内町遺跡 (R-200704)	田原本町23番地 5	個人	共同住宅の 建設	116	2007.3.20	奥谷	2007.6.11	余命在にして既に工事終了。廃瓦地より 約20～30cmの細層であったとか。かくして 遺跡は既に消滅された。
5 萩古・築跡 藤古氏直臣御参拝地 (R-200705)	田原本町東300番地 1	個人	ガソリンスタン ドの解体	24	2007.5.10	豆谷	2007.5.12	現地ガソリンスタンドの解体工事。ラン クルーザーの廃油100Lが残る。
6 羽子田遺跡 (R-200706)	田原本町新町 114番地他	織田直幸	宅地分譲	22	2007.6.14	清水	2007.6.14	昭和後13m、廃瓦地より1.8m下に石垣層と 土層。現地より2.0m下に石垣層。
7 岩内町遺跡 (R-200707)	田原本町54番 洋島神社	洋島神社	洋殿及び 社務所の建設	114	2007.3.20	清水	2007.6.21	現地向洋殿部分及び社務所の基礎施工工 事。土質により近づき位置物を含む。全 般に近づき位置がかかる。
8 蒼紫寺遺跡 (R-200708)	田原本町寺北 268-1 西側道路他	田原本町長	下水道工事	10	2007.4.27	清水 奥谷	2007.6.26	蒼紫寺遺跡の廃瓦地にて。平成、中津 時代の廃瓦地を含む。
9 多道跡 (R-200709)	田原本町568番 1	多神社	馬鹿の堀塁	38	2007.6.25	清水 奥谷	2007.7.18	多道跡の廃瓦地の範囲の開拓。現地表 より2.0m下に近づき瓦を含む傾斜地。
10 小坂安田前屋跡 (R-200710)	田原本町小坂310番地	タチバナ工務店	宅地造成	28	2007.5.28	豆谷 清水 奥谷	2007.8.1 ～8.24	小坂安田前屋跡の範囲にて。昭和後 地造成にて仰ぐように下水道の廃瓦及び 瓦礫工事。古墳周囲。中世大障。骨 物包含層を確認。
11 羽子田遺跡 (R-200711)	田原本町新町204番 東タケバヤシ	食販の建基	42	2007.6.26	豆谷	2007.9.13	廃瓦地より約70cmの廃瓦。壁上内。	
12 萩古・築跡 (R-200712)	田原本町73番 1 西側道路他	田原本町	下水道工事	8	2007.4.27	豆谷 清水	2007.9.21	萩古・築跡跡103m廃瓦地を範囲に斜 けた個人住居の下に下水道工事。現地表 より1.0m下に近づき瓦を含む傾斜地。
13 高森遺跡 (R-200713)	田原本町本町 115番地西側道路	田原本町	下水道工事	66	2007.8.28	清水 豆谷	2007.10.22	2基の個人記念工事。中世の遺物を 確認。中世の瓦を含む。
14 萩古氏直臣 籠置定地 (R-200714)	田原本町藤吉 73番1西側道路他	田原本町	下水道工事	8	2007.4.27	豆谷	2007.11.22	下水道の修理及び個人住人の下水道 汚水井戸設置工事。現地表より1.1m 下に中世の遺物を含む。中世の遺物 を確認。中世の瓦片が出土。
15 貴賀寺遺跡 (R-200715)	田原本町法貴寺1632番 地	個人	住家付高層木 の建築	94	2007.11.6	清水	2007.11.23	近世の瓦が60cm以上に堆積する。上工 事はこの瓦で家内に收まる。古代遺跡の 柱に使う瓦が使用。
16 駒庄遺跡 (R-200716)	田原本町立井 27番地他 西側道路	田原本町	下水道工事	64	2007.8.28	豆谷	2007.11.30	人間の骨が出土する。廃瓦地より1.0m 下に近づき瓦を含む。瓦を含む傾斜地。
17 法貴寺遺跡 (R-200717)	田原本町法貴寺1568番 櫻光寺	本家の建築	122	2007.3.30	清水	2007.12.12	法貴寺の廃瓦地。廃瓦地より1.0m 下に近づき瓦を含む。瓦を含む傾斜地。	
18 羽子田遺跡 (R-200718)	田原本町新町73番 1	個人	青空資材販賣 の建築	114	2007.12.18	清水 奥谷	2007.12.12 ～13	青空の廃瓦地。廃瓦地より1.0m 下に近づき瓦を含む。瓦を含む傾斜地。
19 六面 豪・土造跡 (R-200719)	田原本町東寺740番 ジンガ	田たけむらハウ ジング	宅地の造成	134	2008.2.14	豆谷	2007.12.14	豪の廃瓦地。瓦を含む。
20 鮎森遺跡 (R-200720)	田原本町斐生68番 1	個人	農地の造成	110	2006.12.11	清水	2007.12.19	瓦を含む。
21 千代遺跡 (R-200721)	田原本町千代115番 1	個人	個人住宅の 建築	98	2007.11.16	清水	2008.3.14	鷹野町の廃瓦地。瓦を含む。
22 タカフキ古墳 (R-200722)	田原本町矢張 400番地 東側道路	田原本町	道路の改良	122	2007.12.27	豆谷	2008.2.19 ～2.20	タカフキ古墳の廃瓦地の作業。廃瓦地 より60cmの上草。廃瓦で建設した古墳斜 土層は矢張古墳跡1次大規模の経緯に 対応。
23 ドラ竈 (R-200723)	田原本町東古48番 2	個人	個人住宅の建 築	124	2007.12.28	豆谷	2008.3.5	廃瓦をほとんど伴わない工事。
24 千代高麗 (R-200724)	田原本町千代987番 5	個人	農地住居及び 農地の造成	112	2007.12.11	豆谷	2008.3.21	廃瓦地の基礎整備にて。立会。豆谷より 約20cm下にビースト等の瓦を含む。瓦 層。立会より既に遺物の存在が危うい。
25 鮎平寺遺跡 (R-200725)	田原本町鮎平寺24 個人	個人住宅の建 築	138	2008.2.18	奥谷	2008.3.26	鮎平寺遺跡第3回発掘調査の実績。柱 材より古びた瓦。土器(14世紀)が出土。	

## 2. 小阪安田前遺跡 工事立会 (R-200710) (古墳・中世)

所 在 地 田原本町大字小阪小字細長316番他

担 当 者 豆谷和之・清水琢磨・奥谷知日朗

立会原因 宅地造成

遺 物 量 1箱

立 会 日 2007.8.1~8.24

## 経 訴

小阪安田前遺跡は、標高49.5m前後の沖積地に立地する。遺跡は、平成18年度の試掘調査の成果により、新規確認の遺跡として通知されたものである。今回、分譲住宅の造成に伴う下水管敷設のため、工事立会をおこなった。

## 立会の概要

古 墳 時 代：古墳周濠1条

中 世：大溝 3条

古墳の周濠と考えられる大溝を1条検出した。大溝は、南北の下水管路に沿っているが北側において西への屈曲部を確認したため、方形の墳丘に対する東辺の周濠であると考えられる。周濠屈曲部からは、完形の須恵器短頸壺が出土した。

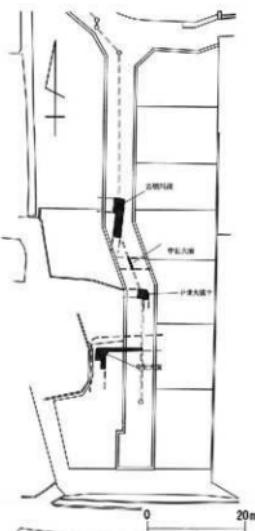
この他、中世の大溝を3条検出している。うち、最も南側のものは、昨年度の試掘調査で検出した大溝の東延長部分である。これら大溝は、古墳と考えられる須佐男神社付近に集中しており、これを取り込んで屋敷地としていたことも想定される。

## まとめ

今回の調査によって、昨年度の試掘調査では明確にできなかった古墳の分布を明らかにすことができた。古墳時代後期の方墳であると考えられる。本遺跡を挟んで、西の小阪里中遺跡と東の小阪細長遺跡の古墳群が繋がることとなり、付近一帯に広い後期古墳群が形成されていたものと考えられる。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)







## II. 資料の整理と活用・普及



## 1. 文化財資料の整理・保管

### (1) 埋蔵文化財の整理・保管

平成19年度の発掘調査・試掘調査・工事立会に伴い保管した埋蔵文化財は、遺物コンテナ約146箱とナイロン袋他で、遺物量は前年度より約33箱多い。本年度の中で全体の1/2を占めているのが羽子田遺跡の調査である。これは、比較的調査面積が大きく、弥生時代から古墳時代前期の集落遺跡の

【埋蔵文化財保管数 1 本調査】

調査番号	遺跡名	調査次数	遺物明細	遺物量	
				現場後	洗浄後 (土器・瓦等)
H19-01	守内町遺跡	第10次調査	弥生上器・土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・近世陶磁器・瓦等	26箱	22箱
H19-02	寺内町遺跡	第11次調査	土師器・須恵器・瓦器・近世陶磁器・瓦等	2箱	2箱 (1・1/3)
H19-03	保津・宮古遺跡	第36次調査	土師器・近世陶磁器・瓦等	1箱	1箱 (3/4)
H19-04	秦奈寺遺跡	第2次調査	土師器・瓦上器・近世陶磁器・瓦等	2箱	2箱
H19-05	唐古・健造跡	第103次調査	弥生上器・土師器・近世陶磁器等	1箱	1箱 (1/4)
H19-06	西竹田遺跡	第3次調査	土師器・近世陶磁器・瓦・木製品等	1箱	1箱 (1/3)
H19-07	為川南方遺跡	第2次調査	弥生上器・土師器・瓦器等	1箱	1箱 (1/4)
H19-08	舞ノ庄遺跡	第2次調査	土師器・須恵器・瓦器等	1箱	1箱 (1/2)
H19-09	法貴寺遺跡	第6次調査	土師器・瓦器・近世陶磁器・瓦・鉄貨等	5箱	5箱
H19-10	日光寺跡定地	第6次調査	土師器・瓦器・中世陶磁器等	1箱	ナ小6
H19-11	坂手北遺跡	第6次調査	土師器・瓦器・近世陶磁器・瓦等	1箱	1箱 (1/2)
H19-12	小坂安田前遺跡	第1次調査	瓦質土器・近世陶磁器・瓦等	1箱	1箱
H19-13	羽子田遺跡	第32次調査	弥生土器・土師器・須恵器・瓦器等	47箱	38箱
H19-14	法貴寺北遺跡	第6次調査	土師器・須恵器・瓦器等	3箱	2箱
H19-15	羽子田遺跡	第33次調査	弥生土器・土師器・須恵器・木製品等	21箱	16箱
H19-16	坂手遺跡	第5次調査	弥生土器・木製品等	2箱	ナ中3 ナ小3
H19-17	秦奈寺遺跡	第3次調査	土師器・須恵器・瓦器・近世陶磁器・瓦・石質土器 未成品等	11箱	9箱
H19-18	十六面・葉土寺遺跡	第24次調査	弥生土器・土師器・須恵器・埴輪・飞獣・木製品等	19箱	8箱

## 【埋蔵文化財保管数2 試掘調査・工事立会・踏査】

調査番号	遺跡名	調査次数	遺物明細	遺物量	
				現場後	洗浄後 (土器・瓦)
S-200701	阪手遺跡	試掘調査	弥生土器・木製品等	阪手5次調査に統合	
S-200702	タカツキ古墳	試掘調査	土師器・須恵器・瓦器等	1箱	ナ小5
R-200701	羽子田遺跡	T.工事立会	弥生土器・土師器・須恵器・埴輪等	3箱	ナ中2・小6
R-200703	羽子田遺跡	T.工事立会	土師器・瓦器	ナ小2	ナ小2
R-200705	唐古・鍵遺跡	T.工事立会	弥生土器(5点)・石器(1点)	6点	ナ小1
R-200707	守内町遺跡	T.工事立会	土師器・近世陶磁器・瓦・鐵貨等	1箱	1箱
R-200708	秦来寺遺跡	T.工事立会	近世陶磁器・木製品	1箱	ナ小5
R-200709	多遺跡	T.工事立会	弥生土器・土師器・須恵器・瓦等	2箱	2箱(瓦1)
R-200710	小阪安田信遺跡	T.工事立会	绳文土器・土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・近世陶磁器等	1箱	1/2箱
R-200713	官森遺跡	T.工事立会	弥生土器(3点)・土師器(1点)	4点	4点
R-200714	唐古兵村鎌塚定塚	T.工事立会	土師器・瓦質土器等	ナ小6	ナ小6
R-200718	羽子田遺跡	T.工事立会	弥生土器・土師器・須恵器・埴輪等	1箱	ナ中2・小4
T-200701	保津・宮古遺跡	踏査	泥塔(1点)	1点	1点

※遺物量の表記は、例えばコンテナ1箱(1/3)とは、コンテナ数としては1箱であるが内容量はコンテナの1/3を収納していることを表している。また、「ナ中・小」は、ナイロン袋の中・小の大きさを表している。

調査内容であったため、多量となっている。羽子田遺跡以外は古墳時代以降の遺跡で小規模な面積のため、それほど多くない。

平成19年度に出土した遺物は、年度末に調査を実施した羽子田遺跡の遺物が多量になったため、未洗浄がでているが、他の遺物の洗浄は終了し、土器・石器・木製品等の項目による分別収納をおこなった。全体の種別内訳としては、弥生土器・古式土師器と中近世の土器類が大半を占めた。その他、木製品や石製品がある。これ以外では金属器、土製品の人物と木・石・種子などの自然遺物サンプルがあるがごくわずかである。なお、これら遺物は、第1次整理までは終了しているが本整理は未着手である。

また、秦来寺遺跡では、古墳時代の玉素材や剝片など玉作り関係の遺物が出土したため、現場で土壤を1mmの籠で洗浄し、それを土ごと持ち帰っている。この土壤がコンテナ17箱分あり、平成19年度では選別未着手の状況となった。

【保管遺物種と数量】

調査番号	遺跡名	調査次数	土 製 品	燒 土 塊	木 製 品	石 製 品	骨 製 品	金 屬 器	鉛 錫	漆 喰	木	石	獸 骨 貝	種 子	炭 化 米
H19-01	寺内町遺跡	第10次調査	○	○	4	○	-	○	○	4	○	■	○	4	2
H19-02	寺内町遺跡	第11次調査	4	1	1	1	-	1	-	-	1	4	-	2	-
H19-03	保津・宮古遺跡	第36次調査	-	-	15	2	-	-	-	-	2	1	-	-	-
H19-04	奈良寺遺跡	第2次調査	-	-	8	-	-	-	-	-	4	4	-	8	-
H19-05	店古・鐵遺跡	第103次調査	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-
H19-06	西竹田遺跡	第3次調査	-	-	2	-	-	1	-	-	-	-	1	1	-
H19-07	為川南方遺跡	第2次調査	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H19-08	岸ノ庄遺跡	第2次調査	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
H19-09	法貴寺遺跡	第6次調査	1	2	8	2	-	○	-	2	5	○	13	-	-
H19-10	日光寺摺定地	第6次調査	-	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
H19-11	阪手北遺跡	第6次調査	4	1	2	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-
H19-12	小坂安田前遺跡	第1次調査	-	-	7	1	-	-	-	-	5	3	-	9	-
H19-13	羽子田遺跡	第32次調査	2	55	14	8	-	3	-	-	14	19	10	○	50
H19-14	法貴寺北遺跡	第6次調査	-	2	2	-	-	-	-	-	2	-	-	1	-
H19-15	岩子田遺跡	第33次調査	2	19	■	3	-	-	-	-	4	10	2	○	16
H19-16	阪手遺跡	第5次調査	-	-	○	1	-	-	-	-	10	-	-	○	-
H19-17	樂樂寺遺跡	第3次調査	3	○	○	○	-	-	-	-	2	○	-	○	-
H19-18	十六面・樂工寺遺跡	第24次調査	1	○	○	○	-	1	-	-	2	○	4	○	-
R-200701	羽子田遺跡	工事立会	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	4
R-200705	店古・鐵遺跡	工事立会	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R-200707	寺内町遺跡	工事立会	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
R-200708	奈良寺遺跡	工事立会	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	2	1	-
R-200709	多遺跡	T.事立会	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
T-200701	保津・宮古遺跡	踏查	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

\*少層遺物は、複数次数あるいは複数遺跡をまとめて分別収納しているため、コンテナ量で表すことができないので、有(○)無(-)で示した。また、数量は点数であるが、□内の数字はコンテナ量である。

【図面・写真の保管数量】

調査番号	遺跡名	調査次数	図面		35mm			
					カラー		モノクロネガ	
			現場	遺物	シート数	コマ数	シート数	コマ数
H19-01	寺内町遺跡	第10次調査	32	3	30	591	17	586
H19-02	寺内町遺跡	第11次調査	4	-	5	91	3	90
H19-03	保津・宮古遺跡	第36次調査	4	-	3	51	2	51
H19-04	茶寮寺遺跡	第2次調査	3	-	2	23	1	23
H19-05	唐古・鍾遺跡	第103次調査	4	-	3	37	2	56
H19-06	西竹田遺跡	第3次調査	2	-	2	28	1	28
H19-07	為川南方遺跡	第2次調査	3	-	2	35	1	38
H19-08	舞ノ庄遺跡	第2次調査	2	-	3	48	2	46
H19-09	法貴寺遺跡	第6次調査	11	-	9	177	5	175
H19-10	日光寺遺跡地	第6次調査	2	-	3	51	2	50
H19-11	坂手北遺跡	第6次調査	3	-	2	29	1	28
H19-12	小坂安田前遺跡	第1次調査	2	-	3	47	2	43
H19-13	羽子田遺跡	第32次調査	33	2	12	238	7	234
H19-14	法貴寺北遺跡	第6次調査	28	-	16	303	9	307
H19-15	羽子田遺跡	第33次調査	31	2	13	242	7	234
H19-16	坂手遺跡	第5次調査	12	-	8	143	4	145
H19-17	茶寮寺遺跡	第3次調査	15	4	16	315	10	318
H19-18	十六面・崇王寺遺跡	第24次調査	22	8	9	166	5	163
S-200702	タカツキ古墳	試掘調査	5	-	2	40	1	41
R-200701	羽子田遺跡	工事立会	-	-	2	29	1	29
R-200703	羽子田遺跡	工事立会	-	-	1	5	1	7
R-200705	唐古・鍾遺跡	工事立会	2	-	1	23	0	22
R-200707	寺内町遺跡	工事立会	-	-	1	11	1	12
R-200708	茶寮寺遺跡	工事立会	-	-	0	4	0	4
R-200709	多遺跡	工事立会	2	-	1	7	1	7
R-200710	小坂安田前遺跡	工事立会	-	-	2	46	1	45
R-200716	栗庄遺跡	工事立会	-	-	0	2	1	2
R-200718	羽子田遺跡	工事立会	2	-	0	7	0	6
R-200721	千代遺跡	工事立会	-	-	0	1	0	1
計			224	19	151	2810	88	2793

## (2) 資料の撮影と写真・図面のデジタル化

発掘調査の出土遺物は、報告書作成や保存処理に伴い隨時、撮影した。また、建造物等についても文化財保存のために記録保存用として撮影をおこなった。また、本町収蔵の出土品について、写真や図面、テキストデータ等を文化財管理システム（ガメディオス）に登載する事業を凸版印刷株式会社に委託した。この事業は、文化庁の埋蔵文化財保存活用整備事業のひとつとして実施した。これにより、本町所蔵の大型写真によって撮影された遺物の大半は、デジタル化された。また、復元模型を撮影した風景写真のデジタル化もおこなった。

【写真撮影・デジタル化一覧】

内容	名称	資料名・内容	フィルムサイズ	カット数	備考
撮影	唐古・鍵遺跡	土製鋳型外枠・鋳型 被熟土器・搬入土器 打製石器・卜骨等	カラーポジ（4×5） カラーポジ（6×6）	59 55	報告書関係
	唐古・鍵遺跡 櫻向遺跡	弥生土器・土師器等	カラーポジ（4×5）	13	
	津島神社等	鬼瓦等	カラーポジ（4×5）	41	春季企画展・速報展
	寺内町遺跡等	墨書き・土師器皿等	カラーポジ（4×5）	5	
	新町竹村邸	建物写真	カラーポジ（4×5）	3	記録保存
			カラーポジ（2B） カラーネガ（2B） モノクロネガ（4×5） モノクロネガ（2B）	58 44 3 70	
				計 351	
デジタル化	唐古・鍵遺跡 ほか町内遺跡	土製鋳型外枠ほか	カラーポジ（4×5ほか） デジタル撮影 トレース図・拓本 テキストデータ	366 80 30 500	文化財管理システムに登載
			35		
			1011		

【文化財管理システム登載件数】

テキストデータ	遺物点数	画像	トレース図	拓本
4200	1630	1846	531	171

(3) 資料の寄贈・図書の受領

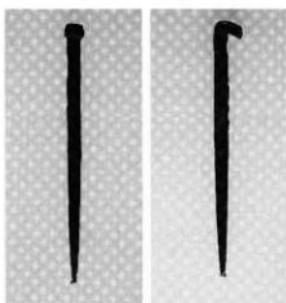
平成19年度は、下記資料3件の寄贈を受けた。

【寄贈資料】

資料名	登録番号	法量等	寄贈者	備考
褐鉄鉱	MX-標本-0007	残存長9.9cm 残存重量255.6g	花坂志郎	生駒山産
鉄釘	001-000-00001M	長さ16.5cm 重量68.7g	多忠記	多神社鳥居に使用
復元楼閣写真		全紙プリント27枚 デジタルデータ	佐藤眞佐司	額縁パネル7点



褐鉄鉱



鉄釘

平成19年度は、関係諸機関・個人（294機関等）から1,032冊の図書の寄贈を受けた。また、図書の購入は22冊である。

【受領図書】

分類	報告書	概報	現況資料	年報	館報	図録	パンフレット	紀要	会報
冊数	547	93	5	63	10	52	44	48	0
分類	論文集	たより	発表資料	単行本	雑誌	目録	その他	合計	
冊数	6	121	14	18	13	2	18(3)	1,054	

\*上記冊数には、2部以上の寄贈84冊を含んでいない。

\*（ ）の数字は、CD-ROM 2枚、DVD 1枚の内数である。

## 2. 遺跡・文化財の保護

### (1) 史跡の追加指定と公有化

唐古・鍵遺跡は、平成11年1月27日、唐古池を中心とする範囲の98,957.73m<sup>2</sup>（159筆）について国の史跡指定を受けた。また、平成14年12月19日には、鍵地区において検出した弥生時代中期初頭の大型建物跡部分を含む1,857.93m<sup>2</sup>（鍵248番2他7筆）について追加指定を受けた。

今回、1次指定を受けた南端の一部と平成14年の追加指定を受けた土地の東側隣接地について、追加指定を受けた。この結果、唐古・鍵遺跡の指定面積は、102,248.98m<sup>2</sup>になった。

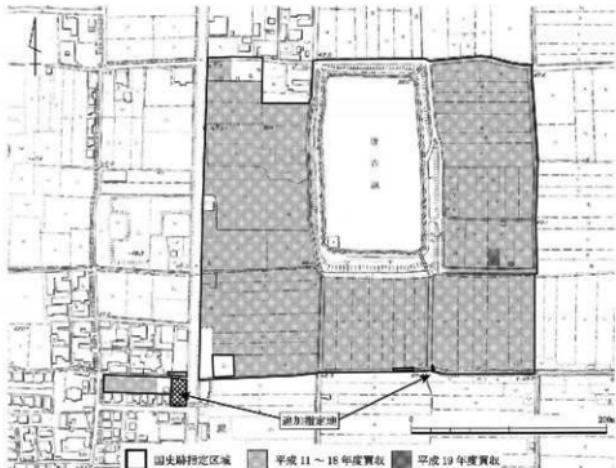
また、唐古・鍵遺跡の平成19年度の公有化は、235m<sup>2</sup>で、全公有化面積の約98%となった（唐古池、里道、水路除く）。

【追加指定地】

地 番	面 積
鍵300番1	396.69m <sup>2</sup>
鍵230番3	19.00m <sup>2</sup>
里道	26.49m <sup>2</sup>
計	442.18m <sup>2</sup>

【史跡の公有化面積】

年 度	地 番	面 積
11～18年度	唐古 50番2 ほか計 77筆	68,744.11m <sup>2</sup>
	鍵 225番1 ほか計 50筆	
19年度	唐古 148番1 1筆	235.00m <sup>2</sup>
合 計	計128筆	68,979.11m <sup>2</sup>



唐古・鍵遺跡の指定地状況

(2) 町指定文化財

平成19年度において、下記文化財3件を田原本町文化財保護審議会に諮問した。当審議会の答申を受け、町の指定文化財として台帳に登録した。内容は、考古資料2件と彫刻1件である。

【田原本町文化財保護審議会 委員】

分野	氏名	備考
建築	林 清三郎	委員長
考古学	石野 博信	
考古学	寺澤 薫	
歴史	和田 萃	
歴史	谷山 正道	
彫刻	鈴木 喜博	



審議会風景

【町指定文化財一覧】

台帳番号	種別	名称及び員数	所有者	時代
1	有形文化財 (考古資料)	「樓閣」が描かれた土器片 3点 唐古・鍵遺跡第47・77次調査出土	田原本町	弥生時代(中期)
2	有形文化財 (考古資料)	翡翠製勾玉と鳴石容器(蓋付) 一式 唐古・鍵遺跡第80次調査出土 1.翡翠製勾玉 2点 1.鳴石容器 1点 1.容器蓋(土器亮片) 1点	田原本町	弥生時代(中期)
3	有形文化財 (彫刻)	木造十一面觀音立像 一躯	法貴寺 自治会	室町時代 (天文10年=1541)

ア、「樓閣」が描かれた土器片

種別 有形文化財(考古資料)

名称及び 「樓閣」が描かれた土器片 3点

員数 唐古・鍵遺跡第47・77次調査出土

所在地 磯城郡田原本町890番1 田原本町役場

所有者 田原本町

所有者の住所 磯城郡田原本町890番1

法量 第1破片(樓閣屋根) 縦8.0cm・横10.1cm・厚さ1.2cm

第2破片(柱・梯子) 縦6.9cm・横8.0cm・厚さ0.9cm

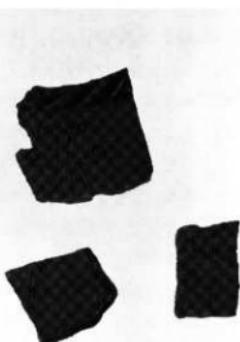
第3破片(寄棟建物) 縦7.0cm・横4.6cm・厚さ0.9cm

時 代 弥生時代（中期）

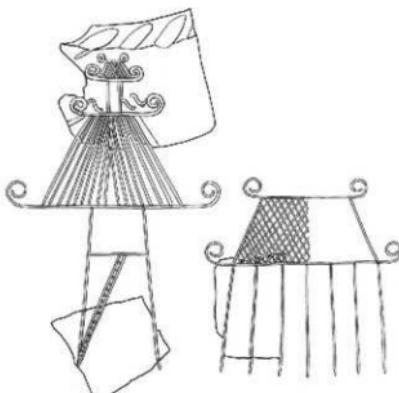
説 明 本絵画土器は、弥生時代中期の短頸壺の上胸部に「樓閣」と寄棟建物の2棟の建物が描かれたもので、3つの破片が残存する。短頸壺は頸部径から復元するとおよそ50cm台の高さになると推定される。この3破片は、土器の色調や胎土、調整手法から同一個体であることが判明している。第1破片は「樓閣」の二層の屋根と棟飾り、第2破片は軒びを有する2本の柱と梯子が描かれている。第3破片は、寄棟建物の柱部分で3本の柱と屋根の一部が残存している。いずれも保存状態は良好であるが、第2破片は土器表面がやや磨耗している。

1991年10月～12月、唐古・鍵遺跡の東南部に位置する町立北小学校のプール改築工事に伴い唐古・鍵遺跡第47次調査が実施され、弥生時代中期の環濠上層から多量の土器片とともに第1・第2破片が出土した。また、その北側隣接地において、2000年1月～3月には通学路整備工事に伴う第77次調査が実施され、大溝から第3破片が出土した。のことから、絵画土器は弥生時代中期の段階で破損し、破片は散逸・埋没したものと推定される。

唐古・鍵遺跡からは、全国で最も多い300例ちかい絵画土器が出土しており、この遺跡を象徴する遺物のひとつになっている。本絵画土器に描かれた建物は、二層の屋根と大きな蕨手状の棟飾りを有しており、これまで発見されている建物絵画には見られない意匠であり、古代建築史上、画期的な遺物となっている。また、弥生時代の集落構造・構成を推定する上でもこの絵画土器の意義は大きい。



樓閣が描かれた土器片



樓閣が描かれた土器片 絵画復元図

イ. 翡翠製勾玉と鳴石容器

種 別 有形文化財（考古資料）

名称及び 翡翠製勾玉と鳴石容器（蓋付）一式

員 数 唐古・鍵遺跡第80次調査出土

1. 翡翠製勾玉 2点

1. 鳴石容器 1点

1. 容器蓋（土器窓片）1点

所 在 地 磐城郡田原本町890番1 田原本町役場

所 有 者 田原本町

所有者の住所 磐城郡田原本町890番1

法 量 1号翡翠製勾玉 全長4.64cm・厚さ1.94cm・重量48.15g

2号翡翠製勾玉 全長3.63cm・厚さ1.24cm・重量16.38g

鳴石容器 長軸14.5cm・短軸13.2cm・厚さ6.9cm

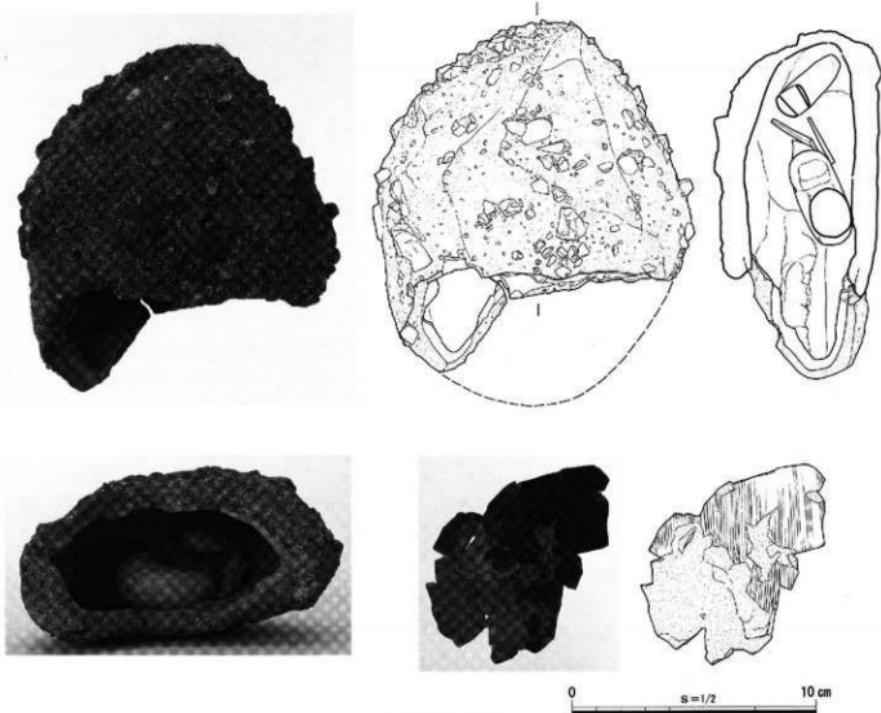
容器蓋（土器窓片）長軸8.2cm・短軸7.5cm・厚さ0.3cm

時 代 弥生時代（中期）

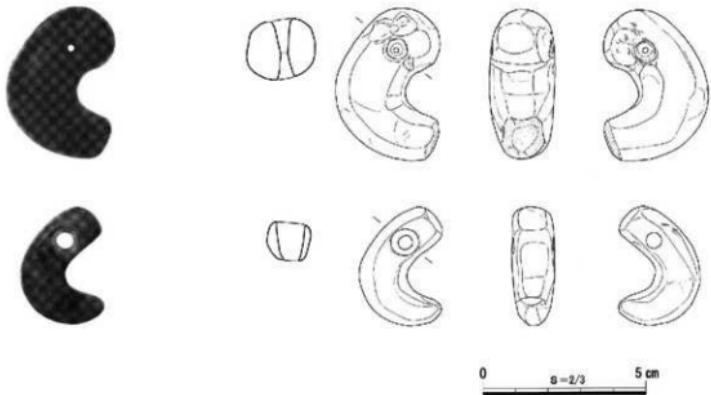
説 明 翡翠製勾玉は新潟県姫川産の翡翠で、弥生時代では最大級・最良質級の勾玉である。鳴石は、生駒谷産と推定される自然遺物であるが、その一端が打ち欠かれ、本来その中空の内部にあったと思われる粘土は取り出されている。この中空になった鳴石を容器として、翡翠製勾玉2点を収めていたと考えられる。なお、容器底面には打ち欠き時に生じたと思われるひび割れが一部みられる。また、翡翠製勾玉とともに土器小片15点が混在していたが、これらが接合したことから、この土器片は鳴石容器の蓋として転用されたものと考えられる。土器片は弥生時代中期の窓下脚部の破片で、外面には煤の付着がみられる。いずれも保存状態は良好である。

本遺物は、2000年10月～2001年1月の唐古・鍵遺跡の範囲（内容）確認調査（第80次調査）で出土したものである。この調査では、弥生時代中期から後期の集落内部を区画する溝を検出し、その溝内から多量の土器片とともに鳴石が出土した。当初、鳴石は単なる岩石と判断されたため、その出土状況は判明しないが、その後の洗浄作業において、その内部に翡翠製勾玉2点と土器片の存在が確認された。

本遺物群は、自然石の鳴石を容器とし、その内部に弥生時代最大・最良質級の翡翠製勾玉2点を収納、土器片で蓋をし、埋納するというこれまでに例のないものである。鳴石内部の粘土は、本例では既に取り出されているが、この粘土は同時代の中国漢代の『列仙伝』巻下には「禹餘糧」として記述、また、日本では奈良時代の正倉院御物のなかに「大一禹餘糧」が存在し、薬として取り扱っていたことがわかつており、また、その内部の翡翠製勾玉を含め、弥生時代の精神文化を考える上で、注目すべき遺物である。



鳴石容器と土器片



翡翠製勾玉

ウ. 木造十一面觀音立像

種 別 有形文化財（彫刻）

名称及び 本造十一面觀音立像 一躯

員 数 頭部内に「天文十辛丑三月四日」、源四郎、源次、与一等の墨書き銘がある。

所 在 地 磐城郡田原本町法貴寺504番 千萬院

所 有 者 法貴寺自治会

所有者の住所 奈良県磯城郡田原本町法貴寺504番 千萬院

法 量 像高189.5cm

形 状 本体 髮頂に仏面、髪中段に二面（二面欠失）、地髪部に六面の頭上面を戴く。正面中央の阿弥陀如来の化仏は欠失。天冠台。髪及び地髪、毛筋彫り。鬢髮一条、耳にわたる。白毫、三道相を現す。耳朶環状。条帛をまとう。左手は屈臂し水瓶（蓮華付）をとり、右手は垂下して掌を前に向け、第1指を曲げ、他指は伸ばし、錫杖（半ばより欠失）を執る。腕鉤（紐二条、列弁帶）を付ける。天衣を両肩にかけ、腰前及び膝上にわたり、手首にかかる。緒（二段折返）をつける。腰を左に捻り、右足を緩めて立つ。

光背 二重円光。頭光は八葉蓮華、頭・身光の界線は紐及び列弁文帯でくくり、光脚を表す。周縁に透影雲唐草文を配す（欠失）。

台座 方座

寸法細目 本体 像高189.5（6尺2寸6分） 眼際高154.4 髮際～額18.6 面幅17.0

（cm） 耳張20.8 面奥23.1 胸厚22.4 腹厚24.3 肘張52.2 裸張35.3

足先間（外）29.5 同（内）16.2 光背高175.5 台座高23.5

品質構造 ヒノキ 寄木造 素地 白毫（水晶欠） 玉眼水晶（嵌入）

頭髪墨、眉・髭墨描、唇朱。眼は黒目墨、ベンガラ（赤）で縁どり、日頬・尻に群青を差す。

本体 頭部は前後二材矧ぎ、内側りし、首納を体部に差す。高髻は一材。頭上面各一材（植付け）。体部は前後三列に材を寄せ、前面は正中で左右二材、中間は左右各一材（材厚7.1cm）、背面は一材を矧ぐ。両手はそれぞれ肩で矧ぎ、左手はさらに肘前で矧ぐ。条帛正面先端、一材。膝部に垂れる天衣遊離部上段二材、同下段三材矧。前脚外側の天衣遊離部、両足先及び同足納（差込）、各一材。

光背 二重円相は正中で左右二材矧とし、別に右側一材を矧ぎ足す。頭光右端に周縁部（透影り雲唐草文）の一部が残るが、他は欠失。

台座 方座（各面一枚矧）。

保存状態 白毫、錫杖柄の下半、以上各欠失。天衣遊離部、本体より離脱。銅製宝冠、冠飾及び胸飾、以上各後補。



木造十一面觀音立像（写真：奈良国立博物館）

- 銘 記 後頭部内面に次の墨書銘がある（『出原本町の仏像』に掲る）。
- 源衛門 源次 与一  
天文十辛丑三月四日  
源四郎
- 時 代 室町時代（天文10年=1541）
- 説 明 本像は右手に錫杖、左手に水瓶をとる長谷寺式十一面觀音で、膝にわたる天衣の垂下形式も天文7年再興（1538）の長谷寺本尊の姿を模範している。頭部内の墨書銘によって、天文10年（1541）、作者源四郎、源次（源衛門と同じ）、与一の手によって造立されたことが分かる。彼らは、16世紀の南都で約80年間にわたり活躍した俗人仏師の集団であり、宿院町（奈良市）に工房を構えたことから宿院仏師と呼ばれている。現在、奈良県内に70件余りの作例があり、県外にも遺品が漸次知られ始めている。宿院仏師は源四郎、源次、源三郎の三世代の仏師集団によって活躍したと考えられ、はじめは番匠の出身であることから僧侶の仏像製作の助手をつとめ、次第に仏師として自立し、仏師屋の屋号を名乗ることになるのだが、その造仏活動の軌跡は戦国時代の大和の社会文化を象徴する歴史的意義をもっている。
- 本像はその第一世代の源四郎が棟梁となって造った仏像であり、第二世代の源次が仏師屋を構える以前の作品である。生硬な顔つきは源四郎の個性を表わしており、頭部は前後に、体部は左右に材を寄せ、正中線のくるいもなく姿態をまとめている。その技量は、当代の室町彫刻の中でも高い評価が与えられよう。また宿院仏師の仏像の中では天理市福住の西念寺像（享禄4年=1531 実清作 源四郎助作 奈良県指定文化財）や広陵町著尾の大福寺像（永禄3年=1560 源次作 奈良県指定文化財）と並ぶ等身大の十一面觀音像のひとつでもあり、町内における重要な中世彫刻のひとつとして注目すべきものである。
- なお、本像が安置されている仏堂は、現在千萬院と称されているが、法貴寺のもと本堂（薬師堂）にあたる。明治維新期に、神仏分離に際して復飾した本坊の実相院にかわって、子院のなかで当時唯一残っていた千萬院が受け継ぐようになったものである。法貴寺は、聖徳太子によって創建され秦河勝が賜ったという伝承をもつ古刹で、盛時には10余の子院を数え、本像が作られた室町時代には、地元の法貴寺氏をはじめ長谷川党に属した在地武士たちの氏寺とされるようになっていた。本像は、こうした歴史と性格を有する同寺の本堂に安置されるようになり、本尊の薬師如来坐像（室町時代 未指定）や不動明王立像（平安時代後期 国指定文化財）などとともに、今まで守り続けられてきたという点も注目される。

### 3. 講 座

#### (1) 考古学実践講座

##### 【一般向け講座】

実施日	講座名	内 容	会 場	受講者
6月9日(土)	講座Ⅱ 中級編	「魏志」倭人伝とは	会議室	39名
7月14日(土)		「魏志」倭人伝と弥生文化①		34名
8月11日(土)		「魏志」倭人伝と弥生文化②		31名
9月8日(土)		磯城の弥生遺跡①	視聴覚室	43名
9月22日(土)		磯城の弥生遺跡②		36名
2月9日(土)	講座Ⅲ 実験考古学編	土器を観察する	パソコン学習室	5名
3月8日(土)		土器を復元する	陶芸室	8名
7日間			7講座	196名

#### (2) チャレンジ子ども弥生探検隊

夏休み・春休みにあわせて、子どもを対象とした体験講座、11月には生活体験イベントを開催した。

##### 【子ども向け講座等】

実施日	内 容		会 場	参加者
7月27日(金)	体験講座	埴輪づくりに挑戦	陶芸室	26名
8月8日(水)		埴輪づくりに挑戦	陶芸室	26名
8月22日(水)		勾玉づくりに挑戦	陶芸・工作室	49名
3月26日(水)		土器の復元に挑戦	会議室	17名
12月1日(土)	弥生生活体験 イベント	お米の脱穀・赤米炊飯・火燃し	唐古・健遺跡現地	親子42名
5日間		7メニュー		160名



埴輪づくりに挑戦



弥生生活体験イベント

## 4. 学校教育への支援

### (1) 唐古・鍵遺跡活用検討委員会

町教育委員会では、唐古・鍵考古学ミュージアムが開館3年を経て一定の成果がみられることや、今後唐古・鍵遺跡の遺跡整備が進められることを視野に入れて、小中学校の学校現場で使える指導書的なものを作成することを目的として、町内の小中学校の先生やボランティアの方々から成る「唐古・鍵遺跡活用検討委員会」(15名)を設置した。この事業は、文化庁の埋蔵文化財保存活用整備事業として採択され、実施したものである。

委員会は、6月26日から1月8日まで計15回開催した。検討した内容は、小学校3年生から6年生までの社会科・国語・音楽・総合的な学習などの授業案12件、中学校での社会科・授業支援体制等である。

各教科では、単元に基づき「目標」・「計画」・「本時のねらい」・「展開」・「資料」等で構成される唐古・鍵遺跡や弥生時代の活用例を作成した。最終的に、活用の全体構想や唐古・鍵遺跡の概要、弥生時代の関連参考資料等を盛り込み、「唐古・鍵遺跡活用計画報告書」を作成し、県内主要小中学校・関係機関に配布した。

【教科・領域と内容】

対象	教科・領域	内 容
小学校3年	社会科	出原本青垣生涯学習センターに行こう
小学校3・4年	国語工作科	弥生人になってみよう
小学校4年	社会科	地域の発展につくした人
小学校5年	家庭科	弥生時代の質頭衣タペストリーを作ろう
	総合的な学習	米作りをしよう
小学校5・6年	音楽科	古代楽器で演奏会をしよう
小学校6年	社会科	米作りのはじまり
	国語科	ニュース番組を作ろう
	道徳	郷土を愛する心
	総合的な学習	弥生時代をさぐろう
		脱穀や火燃しをして、赤米を土器で炊いてみよう
		弥生土器づくりと野焼き
中学校	社会科歴史的分野 単元名：弥生時代の「むら」	米作りの「むら」
		弥生の絆を読む
		環境をめぐらす「むら」

## II. 資料の整理と活用・普及

### 【小学校 6 年 国語科における活用例】

第6回学年 指導課題における活用例					
セクション	解説				
1. 基本名	スヌーピー自身を作成する				
2. 目標	(1) 組合せ: いくつまで重ね、何より多岐の構成が可能か、どのくらいまで詳しく工夫して作成できるかを確認する。 (2) ハート型の組合せや、迷いなし迷路の作成なども確認する。				
3. 対象年齢	(複数年齢層) 幼稚園児から小学校低学年までの各年齢層				
4. 実施例	(1) スヌーピー自身についての組合せを確認する。----- (2) シルエットの組合せを確認する。----- 実験操作の結果再確認して行動する。 (3) ハート型の組合せの中でも確認する。----- (4) 路線図を組合せで確認する。----- 大臣の道筋を行き先を見る。----- (5) 作成率をとる。ひらくやく組合せを行うことを組合せの作成率とする。----- (6) 組合せの中から、組合せの組合せ等で、同じ組合せを複数見出す。----- (7) 組合せを組んでみて、各部品の組合せ等、更に組合せを見出す。-----				
5. 注意点	組合せを組んで、組み立てるときに組み立てるところを組み立てるから組み立てることができる。				
6. 活用	<table border="1"> <thead> <tr> <th>序 順 序</th> <th>大 事</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 本当に自分で組み立てる。 (2) 他のものよりも自分で組み立てる。 (3) 当組合せ(操作手)を組み立てるが日本語で。 (4) A5の字数を確認する。</td> <td>           口頭によるものと書類によるもの は、何をいついてのものである かに注意する。 OHW半角/. 英字をなるべく 書類に記入するが、日本語で ある場合は必ず日本語で 日本語でいついてのものである ことを確認する。         </td></tr> </tbody> </table>	序 順 序	大 事	(1) 本当に自分で組み立てる。 (2) 他のものよりも自分で組み立てる。 (3) 当組合せ(操作手)を組み立てるが日本語で。 (4) A5の字数を確認する。	口頭によるものと書類によるもの は、何をいついてのものである かに注意する。 OHW半角/. 英字をなるべく 書類に記入するが、日本語で ある場合は必ず日本語で 日本語でいついてのものである ことを確認する。
序 順 序	大 事				
(1) 本当に自分で組み立てる。 (2) 他のものよりも自分で組み立てる。 (3) 当組合せ(操作手)を組み立てるが日本語で。 (4) A5の字数を確認する。	口頭によるものと書類によるもの は、何をいついてのものである かに注意する。 OHW半角/. 英字をなるべく 書類に記入するが、日本語で ある場合は必ず日本語で 日本語でいついてのものである ことを確認する。				

### 【中学校・社会科における活用例】

(2) 小学校出前授業

各小学校からの依頼を受け、総合的学習の時間及び社会科の授業として、以下内容の出前授業をおこなった。

【出前授業】

実施日	学校・学年	児童数	内 容
5月23日	田原本小学校 6年	4クラス (139名)	火燃し・赤米炊飯
5月25日			土器づくり
6月13日	北小学校 6年	2クラス (42名)	火燃し・赤米炊飯・脱穀
6月29日			勾玉づくり・土器の野焼き
12月11日			土器づくり
1月18日	平野小学校 6年	2クラス (56名)	土器焼き
6日間		8クラス (延べ377名)	10メニュー

(3) 中学校職場体験学習

中学生の職場経験学習として、田原本中学校・北中学校の生徒を受け入れた。

【体験学習】

期 間	学校名	内 容	人 数
11月 6日～8日	田原本中学校	土器洗浄・遺物選別・石器の整理	3名
11月13日～15日	北中学校	土器拓本・ミュージアム受付	3名
6日間	2学校	10メニュー	延べ18名



小学校 出前授業



中学校 職場体験学習

## (4) 大学の学外授業

博物館実習として、大学生5名（同志社大学・立命館大学・京都女子大学）を受け入れ、下記内容の授業をおこなった。また、奈良大学の通信教育の学外授業として、3回受け入れた。

## 【博物館実習】

実施日	内 容	受講者
9月4日（火）	ミュージアムの概要（ガイダンス）	同志社大学 3名 立命館大学 1名 京都女子大学 1名 計 5名
9月5日（水）	夏季ミニ展示の片付け 遺物収納の仕方と展示遺物カードの作成	
9月6日（木）	遺物の写真撮影方法・子供向け解説シートの作成	
9月7日（金）	講義（博物館業務）・解説パネル・チラシの作成	
4日間		延べ20名

## 【学外授業】

実施日	内 容	人 数
9月1日（土）	奈良大学 通信教育課程「文化財学講義Ⅱ」 唐古・鍵遺跡の現地説明	60名
2月16日（土）		34名
3月15日（土）	唐古・鍵考古学ミュージアムの概要説明・展示品解説	80名
3日間		計174名



博物館実習



奈良大学通信教育

## 5. 刊行物一覧

本年度は、下記 5 点の書物を自刷した。

【刊行物名】

書籍名	発行日	部数	備考
唐古・鍾考古学ミュージアム 春季企画展図録『太安万侖のふるさと』	2007年4月	3,000部	
唐古・鍾考古学ミュージアム 秋季企画展図録『弥生の王都 唐古・鍾』	2007年10月	3,000部	文化庁埋蔵文化財保存活用整備事業
『特別講演・シンポジウム ヤマト王権はいかにして始まったか <発表要旨・資料集>』	2007年10月	850部	桜井市立埋蔵文化財センターとの共同編集 文化庁埋蔵文化財保存活用整備事業
『田原本町文化財調査年報16 2006年度』	2008年3月	700部	
『唐古・鍾遺跡活用計画報告書—小中学校 における唐古・鍾遺跡の教材化—』	2008年3月	300部	文化庁埋蔵文化財保存活用整備事業

なお、印刷発注はおこなわなかつたが、下記の展示解説シートを作成した。

夏季ミニ展示解説シート『田原本の遺跡Vol.3 長川党の在地武士』(2007年7月)

冬季ミニ展示解説シート「ミュージアムの収蔵品 Vol.3 運ばれた弥生土器」(2008年1月)



## 6. 資料の活用

### (1) 資料の貸出

平成19年度は、6機関に8遺跡118点の遺物等を貸出した。貸出内容は、唐古・鍵造跡の出土品が大半で、弥生土器が中心となる。その他、清水風遺跡の絵画上器も貸出利用の多い遺物である。

【資料貸出一覧】

貸出先・期間	遺跡名	資料名	点数	利用目的
滋賀県立安土城考古博物館 【貸出期間】平成19年4月3日 ～平成19年6月29日	唐古・鍵造跡	弥生土器壺 (1)・弥生土器壺蓋 (2) 弥生土器壺 (5)・弥生土器把手付鉢 (1)・縄文土器深鉢 (1)・弥生土器 厚口鉢 (1)・炭化米 (1)・石庖丁 (4)・石庖丁未成品 (6)・環状石斧 (1)・多頭石斧 (1)・鐵鉛石 (1)・ 牙製工具品 (2)	27	春季特別展 『縄文から弥生へ －農耕社会の形成と実年代－』 【会期】 平成19年4月28日～6月10日
奈良県立橿原考古学研究所附属 博物館 【貸出期間】平成19年7月10日 ～平成19年9月21日	羽子山遺跡	土師器皮袋形十輪 (1)・土師器窓 (1) 土師器小形壺 (1)・土師器壺 (1)・ 須恵器壺 (1)・青銅製漆文鏡 (1)	6	連続展『人を創る －2006年度発掘調査報展－』 【会期】 平成19年7月21日～9月2日
国立歴史民俗博物館 【貸出期間】平成19年6月20日 ～平成19年9月20日	唐古・鍵造跡	縄文土器・弥生土器壺 (3)・壺 (8) 古式土器器 (5)・炭化粉・粒圓土器 (5)・半頭未成品・藤柄横斧柄・合 了・合子蓋・網鐵・板狀鉄斧・土製 網鐵錐形外袴・十製武器錐形外袴・ 迷風竹 (2)・大型網鐵錐形外袴・中 型 (レプリカ)・土製投擲・石製投擲・ 石蹴 (7)・打製石劍 (2)・結晶片岩 石庖丁・大型輪刃石斧・扁平片刃石 斧 (2)・鍵針・鹿角製織錘車・卜骨 (イノシシ・シカ)・イノシシ下顎 骨穿孔・炭化米・広口壺で飲かれた 雜穀・ウリ・ヒョウタン・モモ・蕃 鉢盆容器・圓鉢底容器蓋・ヒスイ製 勾玉 (2)	64	特別企画 『弥生はいつから!?』 －年代研究の最前線－』 【会期】 平成19年7月3日～9月2日
	清水風遺跡	絵ぬき器 (盾と戈を持つ人物)	4	

(財)元興寺文化財研究所 【貸出期間】平成19年9月21日 ～平成19年11月21日	保津・ 宮古遺跡	木製盾	1	秋季特別展 「発掘された木の記憶」 【会期】 平成19年10月28日～11月11日
裾井市立埋蔵文化財センター 【貸出期間】平成19年10月1日 ～平成19年12月5日	清水風 遺跡	松脂土器（盾と戈を持つ人物）	2	企画展 『ヤマト王権はいかにして始まつたか』 【会期】 平成19年10月3日～12月2日
奈良県立橿原考古学研究所附属 博物館 【貸出期間】平成19年12月1日 ～平成19年1月31日	唐古・鍛造跡	鐵骨（ネズミ）(4) ネズミ爪压痕捺生土器(4)	8	特別陳列「はじめの子年」 【会期】 平成19年12月15日～1月20日
6機関	延べ 8遺跡		118点	延べ会期期間日数263日

【種別による貸出点数】

上器	埴輪	上製品	石器	木器	金属器	牙角 製品	ガラス	骨・貝	種・穀物	レプリカ 模型	総点数
48	0	6	28	11	4	1	0	11	7	2	118点

資料の継続貸出は、2機関において毎年度の更新をおこなっている。

【資料の継続貸出】

貸出先	遺跡名	資料名	点数	利用方法
香芝市二上山博物館 【貸出期間】平成19年4月1日 ～平成20年3月31日	唐古・鍛造跡	弥生土器壺・壺・高杯 槍先形石器	4	常設展示
大阪府立弥生文化博物館 【貸出期間】平成19年4月1日 ～平成20年3月31日	唐古・鍛造跡	十彈	3	常設展示
2件	延べ2遺跡		7点	

## (2) 写真掲載・撮影

写真的貸出及び掲載（転載含む）は、33件101点の写真資料を許可した。また、撮影は3件で唐古・鍵考古学ミュージアムの展示品・展示風景であった。写真掲載の内容は、唐古・鍵遺跡の出土品が中心で、「櫻鶴が描かれた土器片」の利用度が高い。

## 【写真掲載・撮影一覧】

貸出先	名 称	資料名	点数	掲載寄稿
滋賀県立安土城考古博物館	唐古・鍵遺跡	弥生土器壺（2）・弥生上器堺（3） 縄文土器深鉢・厚口鉢・狹鉢石・ 牙製垂飾品	9	展示図録「縄文から弥生へ—農耕 社会の形成と年代—」
国立歴史民俗博物館	唐古・鍵遺跡	縄文土器・弥生土器（2）・絵画土器（2）・平鉢未成品・彌値・板状 鉄器・土製刷毛器卓外枠・透風 管・石値・打製石剣・扁平片刃石 斧・柱状石斧・鐵劍・卜骨・褐鉄 鏡容器・褐鉄鏡容器蓋と弥生土器・ ヒスイ製勾玉（2）・集落復元GF	21	展示図録「弥生はいつからか？ 一年代研究の最前線—」
		清水風遺跡 絵画土器（酒と戈を持つ人物）		
(株) NHKきんきメディアプラン ミュージアム	唐古・鍵考古学 ミュージアム	展示風景	撮影	『趣味色々 遺跡ウォッチング』
奈良県知事公室 広報広聴課	唐古・鍵考古学 ミュージアム	展示風景	撮影	奈良テレビ『情報！奈良チャンネル』 『奈良の魅力BOX』HP動画配信
(株) 山川出版社	唐古・鍵遺跡	遺跡風景・縄画土器（櫻鶴）	8	奈良県高等学校教科等研究会 歴史部会 『奈良県の歴史歩く 上巻』
	羽子田遺跡	牛形埴輪・盾持人埴輪		
	安房寺	阿努陀迦来像		
	本光羽寺	十一面觀音像		
	民俗文化財	龍の蛇巻き・今里の蛇巻き		
(株) ディアゴスティーニ・ ジャパン	唐古・鍵遺跡	男模形木製品	1 28枚	『古代文明ビジュアルファイル』
独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所	羽子田遺跡	牛形埴輪	1 紙版	ウェブサイトに公開

(有) オフィスJ・B	唐古・鍵遺跡	縄文から弥生へ・弥生土器の用途と形・壺形土器の変遷・弥生土器の文様(4)・絵画土器(横闇)・復元横闇	9	『CG日本史シリーズ 古代日本』双葉社
国立歴史民俗博物館	唐古・鍵遺跡	突帯文土器片	1	「展博」143号
(有) コーベット・フォトエージェンシー	唐古・鍵遺跡	絵画土器(横闇) 復元横闇	2	高校歴史資料集『日本史総観』東京法令出版株式会社
(株) 小学館クリエイティブ	唐古・鍵遺跡	さまざまな弥生土器・絵画土器(横闇)・木を削る道具・木を削す道具・復元横闇	5	『一冊でわかる イラストでわかる 図解古代史』成美堂出版
大阪大学総合学術博物館	笠鉢山 1号墳	馬形と人物埴輪	1	展示説明パネル
グループ丹 あかい奈良編集局	唐古・鍵遺跡	掻扒埴容器とヒスイ製勾玉	1	「あかい奈良」37号
千葉日報社	唐古・鍵遺跡	突帯文土器片	1	『千葉日報社』連載企画
(株) 山川出版社	唐古・鍵遺跡	遺跡全景・後元横闇・松圓土器(横闇)・掻扒埴容器とヒスイ製勾玉・環底・大型埴物群・平鏡	7	『詳説 日本史図録』
特定非営利活動法人 先端教育情報研究所	唐古・鍵遺跡	絵画土器(横闇)	1	『社会科教育』11月号 明治図書
(株) 岩波書店	唐古・鍵遺跡	布巻具	1 軒載	大野晋『日本語の源流を求めて』
(財) 元興寺文化財研究所	保津・宮古遺跡	木製盾	1	展示開録『発掘された木の記憶』
	唐古・鍵遺跡	四脚容器・木製高杯・杓子未成品	3	
(株) 小学館	唐古・鍵遺跡	絵画土器(横闇)	1 軒載	松木武彦『日本の歴史 第1巻 列島創世記』
毎日新聞 奈良支店	唐古・鍵遺跡	絵画土器(盾と戈を持つ人物)	2 軒載	新聞掲載
(株) ユーキャン	唐古・鍵遺跡	復元横闇	1 軒載	『森浩一が語る日本の古代』広告

(株) 地域情報ネットワーク	唐古・鍵遺跡	銅鋤片	1	『月刊 ならら』2007年12月号
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	羽子田遺跡	写真パネル(2)・写真図版(4)	6	展示図録「大和を概る－2006年度発掘調査報展」
共同通信 大阪支社	唐古・鍵遺跡	ネズミの爪痕の残る上器	1	『古代のネズミ』新聞記事
(株) 悠工房	唐古・鍵遺跡	絵岡上器(横湖)	1 転載	『クラスアップ問題集』
(株) 文英堂	保津・宮古遺跡	筋道追跡鉄鏃	1	上田正昭・千田松『増徳太子の歴史を読む』
奈良県企画部総合交流局	唐古・鍵遺跡	掲鉄瓶容器とヒスイ製勾玉	3	『京良・大和路 まほろば巡礼』
	唐古・雞谷古学ミュージアム	ミュージアム外観・展示風景		小学館
(財) 法政大学出版局	唐古・鍵遺跡	弥生前期の小形壺	1	秋田裕毅「井戸」 奈良県立橿原考古学研究所より借用
(株) 背本書店	保津・宮古遺跡	筋道追跡鉄鏃	1	近江俊秀「道路誕生」
奈良県立橿原考古学研究所	唐古・鍵遺跡等	中期前半の供献土器	2	『三河遺跡』奈良県立橿原考古学研究所調査報告
	坂手本遺跡等	方形周溝基の供獻上器		
(株) 奈良テレビ放送	唐古・雞谷古学ミュージアム	弥生のまつり模型ほか	撮影	『報道特集 邪馬台国』都は調向にあった』
(株) 講談社	秦寺寺	秦河勝像	1	『週刊 日本の仏像50号』
平城遷都1300年記念奉賛協会	唐古・雞谷古学ミュージアム	展示風景	1	『T10(なんと)楽しい!奈良体感教室』メディアアート
(株) 吉川弘文館	唐古・鍵遺跡	掲鉄瓶容器とヒスイ製勾玉	1 転載	三前佑之「歴史と古事 古事記を読む」
大慈社	唐古・鍵遺跡	復元模型	1	『日本の地理 近畿地方』
(株) 思文閣出版	唐古・鍵遺跡	掲鉄瓶容器とヒスイ製勾玉	1 転載	岡本健一「蓬莱山と扶桑街－日本文化の古層の探求－」
36件			102点	

### (3) 資料調査

本町所有・保管遺物について、下記の者による資料調査があった。調査は、唐古・鍵遺跡の出土品が中心である。

#### 【資料調査】

調査日	調査者	資料名
6月4日	常松幹雄（福岡市教育委員会）	唐古・鍵遺跡 矢形石製品
7月24日	佐藤良二（香芝市教育委員会）	唐古・鍵遺跡 石獣ほか
9月27日	春成秀爾（国立歴史民俗博物館）	唐古・鍵遺跡 純土器
2月19日	山田俊輔（早稲田大学會津八一記念博物館）	小阪里中古墳 円筒埴輪
3月18～28日	東島沙弥佳（奈良女子大学）	唐古・鍵遺跡 動物骨
3月19日	池田哲（岡山大学埋蔵文化財調査研究センター）	唐古・鍵遺跡 打製石戈と柄

## 7. ボランティア組織

### (1) ボランティア組織の概要

唐古・鍵遺跡を総合的に支援する任意ボランティア組織として、平成16年4月10日、「唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会」（愛称：唐古・鍵支援隊）が設立された。平成19年度の会員は、57名である。

主な活動は、唐古・鍵考古学ミュージアムの展示説明ガイドや小学校の総合的学習の支援や子ども会等を対象とした考古学体験、ミュージアムへの勧誘活動、文化財保存課（ミュージアム）主催事業への支援などがある。活動については、4月の総会を経て、月例の運営委員会で検討され実施されている。また、「ものづくり教室」の部会では、新しい体験学習メニューの開発や体験学習教材の整備など月2回おこなわれている。このような実績から教育委員会では、小中学校向けの指導書作成にあたり、「唐古・鍵遺跡活用検討委員会」の委員として3名を委嘱した。



唐古・鍵支援隊 総会



文化祭（勾玉づくり）

## 【唐古・鍵支援隊の支援活動】

活動日	内容	主催	支援内容	活動人數
4月24日・4月28日・5月6日 5月12日・6月16日・10月28日 11月10日	春季企画展 演説会・報告会 遺跡ウォーク（多遺跡） 秋季企画展 シンポジウム 遺跡ウォーク（唐古・鍵遺跡）		受付 支援	39人
6月9日・7月14日・8月11日 9月8日・9月22日	考古学実践講座	文化財保存課	受付	8人
7月27日・8月8日・8月22日 3月26日	チャレンジ子ども弥生探検隊 (埴輪づくり・勾玉づくり・土器復元)		支援	28人
12月1日	弥生生活体験イベント		支援	11人
6月26日～11月22日までの11日間	唐古・鍵遺跡保存活用検討委員会		支援	27人
5月23日・5月25日 6月13日・6月29日 12月11日・1月18日	総合的学習（土器づくり・火薙し・炊飯・脱穀）	田原本小学校 北小学校 平野小学校	支援	34人
11月4日	文化祭（勾玉づくり）	生涯学習課	支援	7人
5月27日・6月9日・10月20日 10月21日・11月14日・12月8日 2月24日	ベルトづくり 勾玉づくり 埴輪づくり	大安寺・九品寺 西八尾・南葉王寺 笠縫・杉の子 各子ども会	支援	37人
延べ42日		11回体		191人

## 【唐古・鍵支援隊の主要活動】

活動日	内容		活動人數	
4月21日	総会		30人	
毎月第3土曜日	定例運営委員会		144人	
	遺跡ガイドプロジェクト		54人	
毎月第2・4水曜日	ものづくり部会		172人	
	延べ55日			370人





### III. 唐古・鍵考古学ミュージアム



## 1. 唐古・鍵考古学ミュージアムの概要

### (1) ミュージアムの概要

田原本青垣生涯学習センターは、平成16年11月24日に開館し、公民館と弥生の里ホール、唐古・鍵考古学ミュージアム、図書館の4施設からなる複合施設である。建物全体の延べ床面積は13,447.7m<sup>2</sup>である。唐古・鍵考古学ミュージアムは文化財保存課、その他の施設は生涯教育課、図書館の所管である。

唐古・鍵考古学ミュージアムは、唐古・鍵遺跡の出土品を中心とした展示構成を通して、唐古・鍵遺跡の生活文化、近畿地方の弥生文化を知ることができる展示とするもので、単なる考古資料の展示にとどまらず、「考古学」という学問を通して、弥生の情報発信基地になることを目指しており、「唐古・鍵考古学ミュージアム」という名称をしている。

展示は、1. 時代的な流れよりムラの風景や弥生の環境、生活文化がわかる展示、2. 質や量を実感できる実物資料の展示、3. ケース展示、4. 解説文やキャプションは最小限とし、わかりにくい部分については、「模型」や「映像資料」で補足、5. 展示の解説にはボランティアガイドを登用、6. 唐古・鍵遺跡だけでなく、田原本町の通史（重要文化財「埴輪牛」）も展示、という方針でおこなった。

ミュージアムの利用は、下記のとおりである。

開館時間：午前9時から午後5時まで（入館は午後4時30分まで）

休館日：毎週月曜日・12月28日～1月4日

観覧料：常設展大人200円（団体150円）高校生・大学生100円（団体50円）・15歳以下は無料

公式ホームページ <http://www.karako-kagi-arch-museum.jp/>：平成16年10月から公開している。そのコンテンツは、ご利用案内、交通案内、展示案内、収蔵資料検索、特別展・懸し物、刊行物案内、ボランティア、唐古・鍵遺跡、リンクの9構成で構成されている。平成19年度のアクセス件数は10,291件で、前年度より25%増加した。

### 【ホームページのアクセス数】

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
アクセス数	2,518	8,324	8,183	10,291
累計	2,518	10,842	19,025	29,316

### (2) 常設展示

#### ア. 常設展示の概要

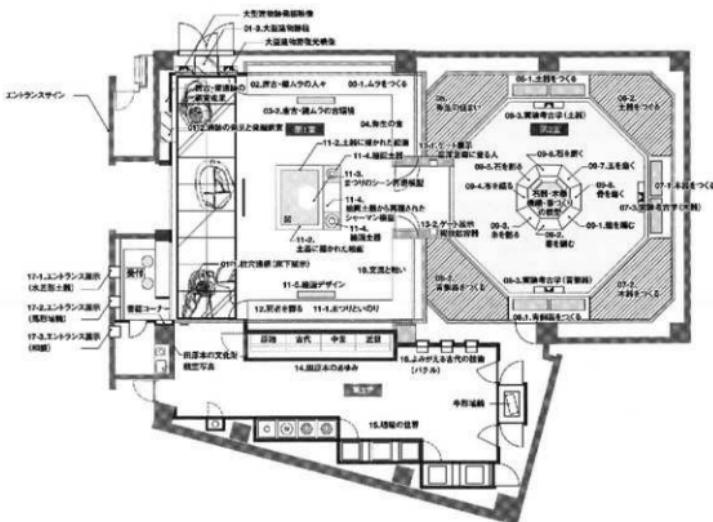
常設展は3つの展示室から構成され、展示品の総点数は948点である。このうち複製品は11点、模型は7点で、実物の展示が多いことが本ミュージアムの特徴である。3つの展示室のうち、第1室・第2室が唐古・鍵遺跡をテーマとする「唐古・鍵の弥生世界」、残りの第3室が田原本町の通史を考古学的に観察する「田原本のあゆみ」となっている。また、展示室のエントランスや田原本青垣生涯学習センター内には、ロビー展示として8ヶ所の展示ケースを設置し、出土品等を展示する。

### 【ミュージアムの展示室概要】

	面積	实物	模型・複製品等	ケース
常設展示室	347m <sup>2</sup>	930点	18点	44
ロビー等展示ケース	5 m <sup>2</sup>	13点	21点	8
特別展示室（会議室）	67m <sup>2</sup>	—	—	19（可動式）



エントランス



### 展示室平面图

## イ. 唐古・鍵の弥生世界

第1・2室の「唐古・鍵の弥生世界」は、唐古・鍵遺跡の環濠集落をイメージして設計している。第1室は環濠外側の世界を、第2室は環濠内側のムラの生活や「ものづくり」をテーマとする。

## ◆第1室◆

環濠内外の環境や、周辺地域との交流、精神世界をテーマとし、「遺跡の発見と発掘調査」・「唐古・鍵ムラの人々」・「ムラをつくる」・「弥生の食」・「交流と戦い」・「まつりといのり」・「死者を葬る」の7つのコーナーで構成される。

また、エントランスの床下には、第74次調査で検出された大型建物跡の発掘現場を再現し、出土した大型建物の柱や、大型建物復元の映像資料を展示する。



第1室 全景



「まつりといのり」コーナー



「まつりといのり」コーナー

◆第2室◆

唐古・鍊ムラ内側での生活や「ものづくり」(手工業生産)をテーマとし、「弥生の住まい」・「土器をつくる」・「木器をつくる」・「青銅器をつくる」・「籠を編む」・「藁を編む」・「糸を撚る」・「布を織る」・「石を割る」・「石を磨く」・「玉を磨く」・「骨を磨く」の12コーナーで構成される。また、中央展示ケースには、8ヶ所の引き出し展示(収蔵展示)を配置し、「さまざまな打製石器」・「リサイクルされた石器」・「石庖丁の製作工程」・「さまざまな石庖丁」・「骨角器の製作工程」・「さまざまな紡錘車」を展示し、多彩な「ものづくり」の実態を示す。

なお、第2室では壁面を大型3面スクリーンとして利用し映像資料を放映する。映像の内容は2部で構成され、第1部は弥生時代の環境をイメージした映像に、絵画土器の線画を挿入して構成する。第2部は唐古・鍊ムラの最盛期のイメージを導入部とし、ムラ内部での「ものづくり」の様子をイラストによって再現する。また、各展示コーナーには小型のビデオモニターを設置し、土器・木器・青銅器の製作工程を映像で紹介するとともに、製作実験で使用した道具類や、完成した復元品をモニタ下のケースに展示する。



第2室 全景



「土器をつくる」コーナー



「石を磨く」引出展示

## ウ. 田原本のあゆみ

田原本町の通史をテーマとし、「田原本のあゆみ」・「埴輪の世界」・「よみがえる古代の技術」の3コーナーで構成される。

「埴輪の世界」に展示する牛形埴輪は、重要文化財に指定されており、今回、ミュージアムの開館に伴って奈良国立博物館から返還して頂いた。また、「よみがえる古代の技術」では、人間国宝（重要無形文化財保持者）に認定された故・吉田文之氏の接縷作品を展示する。



第3室 全景

## エ. ロビー展示

展示室エントランスに3ヶ所、田原本青垣生涯学習センター内に5ヶ所の展示ケース（ロビー展示）を設置した。



ロビー展示 1



ロビー展示 2

## 2. 企画展・ミニ展示

平成19年度は、以下の企画展・ミニ展示を開催した。秋季企画展とそれに伴うイベントについては、文化庁埋蔵文化財保存活用整備事業として採択され実施した。

### (1) 春季企画展「太安万侖のふるさと

～多周辺の遺跡と文化財～

内 容：太安万侖を輩出した多氏の本拠地と多周辺の文化財に

焦点を当て地域的な特徴を探る展示をおこなった。

期 間：4月21日（土）～5月27日（日）

会 場：特別展示室（会議室）

観覧料：一般 200円（100円） 高校・大学生100円（50円）

※（ ）は20名以上の団体料金

入館者：848名（企画展のみ）



春期企画展チラシ

#### 【展示ケースの配置】



展示風景

#### 【展示構成と主要展示品】（展示総数117点）

- (I) 多のあけぼの（ケース⑥）  
縄文土器・石器（矢部遺跡）
- (II) 多周辺の弥生時代（ケース③④⑥）  
木製品・弥生土器・絵画土器  
銅劍の切先・土製品・石器（多遺跡）
- (III) 多周辺の古墳時代（ケース⑤⑦）  
古式土師器（矢部遺跡）・土師器・朝鮮軟質系土器（多遺跡）・須恵器（团栗山古墳）
- (IV) 古代多氏と太安万侖（ケース①②⑧⑨）  
墓誌（レプリカ）・木櫃（復元品）・軒平瓦  
土師皿・錢貨
- (V) 速報展（ケース⑩）  
奈良三彩（法貴寺斎宮前遺跡）
- (VI) 速報展（ケース⑪）  
清水風遺跡の製塙土器・土馬
- (VII) 速報展（ケース⑫⑬⑭）  
羽子田遺跡の異形土師器・須恵器・埴輪

## 【借用遺物】

遺跡名	資料名	点数	所蔵機関
多道跡	銅劍の切先	1	奈良県立 橿原考古学 研究所
	弥生土器（Ⅱ・Ⅲ様式）	6	
	埴薺土器（建物）	1	
	石塼丁・石鐵・石槍	10	
	木製容器・盃・高杯	5	
	伏頭	1	
	輪式土器・初期須恵器	2	
	土師器（古墳中期）	2	
	楊貴土器・須恵器	2	
	神功御室	1	
太安万侖墓	太安万侖墓誌 (レプリカ)	1	奈良県立 橿原考古学 研究所附属 博物館
	木櫃（復元品）	1	
矢部道跡	縄文土器（後期）	10	
	石歛・石匙	3	
	杓形・土鍤形土製品	2	
	古式土師器	8	
团栗山古墳	須恵器	1	南小学校
4道跡		57点	3機関



講演会（和田莘先生）



報告会（清水琢哉）



遺跡ウォーク（多神社）

## 【関連イベント】

イベント名	内 容	日時・場所	参加人数
講 演 会	和田 莘 「田原本の古代氏族—多氏を中心に—」	5月6日（日） 午後2時～4時 弥生の里ホール	136人
報 告 会	清水琢哉 「2006年度の調査成果」 法賀寺窟宮前道跡・清水鳳道跡・羽子田遺跡	5月12日（土） 午後2時～4時 視聴覚室	32人
道 跡 ウォーク	「多神社周辺を歩く」（約7km） 津島神社（集合）→秦安寺→多神社→团栗山古墳→安樂寺→八幡神社（橋の巨樹）→津島神社（解散）	4月28日（土）	38人

(2) 秋季企画展「ヤマト王権はいかにして始まったか  
～弥生の王都、唐古・鍵～」

内 容：桜井市教育委員会との共同企画により開催した企画展。

唐古・鍵遺跡における前・中期の手工業関連遺物、後期から古墳時代前期への変遷と集落の消長、纏向遺跡との関連に焦点を当て、展示をおこなった。

期 間：10月13日（土）～11月18日（日）

会 場：特別展示室（会議室）

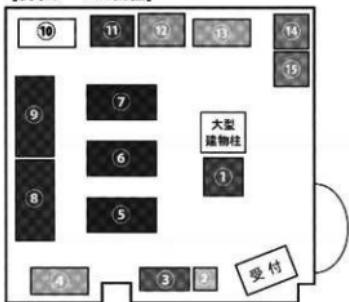
観覧料：無料

入館者：2,589名（企画展のみ）



秋季企画展チラシ

【展示ケースの配置】



展示風景

【展示構成と主要展示品】（展示総数189点）

(I) 銅鐸の製作（ケース②⑤）

銅鐸片・銅鐸の鋳型外枠

青銅器の鋳型外枠

(II) 石器とその製作（ケース④⑥）

石製品（石礫・石庖丁・石槍・石錐）

流紋岩・サスカイト原石

(III) 木製品（ケース⑦）

農具・石斧の柄・不明木製品

(IV) 弥生から古墳へ（ケース①③⑧⑨）

古式土師器

(V) 井戸の祭祀（ケース⑩⑪⑫⑬）

井戸枠に利用した大量

井戸に供献された土器・ト骨

(VI) 弥生時代のムラ（ケース⑭⑮）

環濠に並べられた土器・橋脚・大型建物の柱

【借用遺物】

遺跡名	資料名	点数	所蔵機関
纏向遺跡	古式土師器	16	桜井市教育委員会

## 【関連イベント】

イベント名	内 容	日時・場所	参加人数
特別講演 石野博信「弥生から古墳へ—唐古・鍵と遷向—」			
基調講演 シンポジウム	「ヤマト王権はいかにして始まったか」 寺澤 勲（コーディネーター） 藤田三郎「奈良盆地の弥生環濠集落の解体」 秋山浩三「チャイルドの〈長距離交易〉と唐古・鍵～遷向の時代」 森下章司「青銅器の変遷と唐古・鍵道路、遷向遺跡の時代」 橋本耕彦「前方後円墳の出現を巡る諸問題—遷向道路からの視点—」 松木武彦「古墳出現前後のキビとヤマト」	10月28日（日） 午前9時30分～午後5時 弥生の里ホール	648名
遺 跡 ウォーキー	「唐古・鍵から遷向遺跡を歩く」（約10km） 唐古・鍵遺跡（集合）→唐古・鍵考古学ミュージアム（昼食）→村屋神社→遷向石塚古墳→木製板面出土地→ホケノ山古墳→箸墓古墳→桜井市立埋蔵文化財センター（解散）	11月10日（土） 午前10時～午後4時	153名



石野博信先生の特別講演



シンポジウム 1



シンポジウム 2



遺跡ウォーク

### (3) ミニ展示

#### ア. 夏季ミニ展示

発掘調査をおこなった町内の遺跡や出土品などを紹介する「田原本の遺跡3 長川党の在地武士金剛寺・佐味遺跡」展を7月21日(土)～9月2日(日)まで開催した。

##### 【展示の構成と内容】

(展示期間：38日間／展示点数71点)

##### (I) 原始・古代の佐味遺跡(ケース①)

古式土師器・古代の土師器・須恵器

線刻土器・墨書き土器

##### (II) 金剛寺遺跡の出現(ケース②)

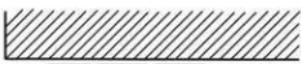
古式土師器・古代の土師器・須恵器

瓦器塊・絵図

##### (III) 中世の生活道具(ケース③④)

火打石・下駄・羽子板・卒塔婆

羽釜・擂鉢・土師皿



#### イ. 冬季ミニ展示

冬季ミニ展示は、当教育委員会が保管所有する遺物を紹介する展示で、今回は土器の移動に焦点をあてる「ミュージアムの収蔵品3 運ばれた弥生土器」展を1月26日(土)～3月2日(日)まで開催した。

##### 【展示の構成と内容】

(展示期間：32日間／展示点数42点)

##### (I) 西日本から運ばれた弥生土器(ケース①③)

吉備(窯・壺)・摂津(壺)・河内(水差形土器)

##### (II) 東日本から運ばれた弥生土器(ケース②③)

近江(窯)・伊勢湾周辺(窯・壺)



### 3. 入館者・ボランティアガイド

#### (1) 入館者数

平成19年度の入館者数は、12,427人である。前年度の入館者を比べると、本年度の入館者は約11%増加した。

【月別入館者数】

月	開館日数	有料入館者		無料入館者			合計
		一般	高・大学生	15歳以下	身障者	招待者	
4月	25	283 (112)	15 (0)	219 (84)	9	8	208 742 (196)
5月	27	523 (48)	35 (0)	665 (362)	14	18	326 1,581 (410)
6月	26	456 (239)	17 (0)	233 (85)	5	5	167 883 (324)
7月	26	125 (0)	51 (0)	245 (0)	2	4	215 642 (0)
8月	27	202 (0)	26 (0)	429 (0)	5	6	144 812 (0)
9月	26	188 (0)	74 (60)	130 (0)	10	3	133 538 (60)
10月	26	568 (67)	39 (0)	153 (0)	16	70	1,019 1,865 (67)
11月	26	392 (36)	61 (0)	296 (0)	25	24	2,328 3,126 (36)
12月	23	230 (131)	15 (0)	124 (0)	6	12	77 464 (131)
1月	23	213 (70)	9 (0)	101 (0)	2	4	95 424 (70)
2月	25	362 (229)	51 (34)	161 (0)	5	22	123 724 (263)
3月	26	218 (0)	90 (80)	177 (0)	3	10	128 626 (80)
合計	306	3,766 (932)	483 (174)	2,933 (531)	102	186	4,963 12,427 (1,637)

\* ( ) は団体入館者の人数(内数)

【年度別入館者推移】

年度	開館日数	有料入館者		無料入館者			合計
		一般	高・大学生	15歳以下	身障者	招待者	
16年度	103	1,744	131	1,345	42	251	1,083 4,596
17年度	306	4,988	401	3,060	174	357	3,040 12,020
18年度	306	2,962	911	3,138	105	233	3,879 11,228
19年度	306	3,760	483	2,933	102	186	4,963 12,427
累計	1,021	13,454	1,926	10,476	423	1,027	12,965 40,271

\*16年度は、11月24日から3月31日まで延べ103日間の入館者数